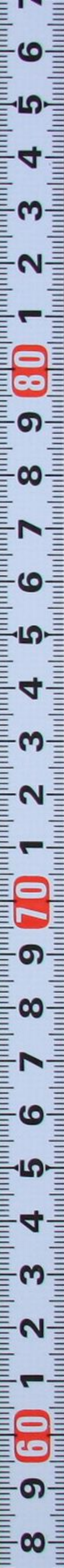




江戸名所圖會

九



丘氏之四言

四谷浄門の外より西の方内藤新宿のあり迄の惣名之里

老云此地の四方は谷あり故は四谷と号する

地小谷有しが寛永十三年外廓营造の時浄畑の揚土を以て東西の両谷を埋め

る故に平地とありと旧名はうらやまといふ塩田の入口を今も坂町と号する其

坂也又古く坂あり有り一頃ハ民家一軒あり夫婦の人居住せし故に夫婦

坂と呼ぶと云く或人云此入國の頃ハ今の靴町而側番町永田町に至ると本多政八郎高木九助両家

の下屋敷として下し置れし共城近きにより市谷の臺此原を永代の

浄説あり下し入表四百八十間ハ只四人指置れしあり四家と云り

此地ハ永祿の頃霞村とよみくると云傳ふ或云往古此地ハ武蔵

野ハ續々一曠原なり此所彼所ハ土民の家四家あり故

四家と云へり共の事跡合考は往古今の尾州公此屋敷表門の地及ハ

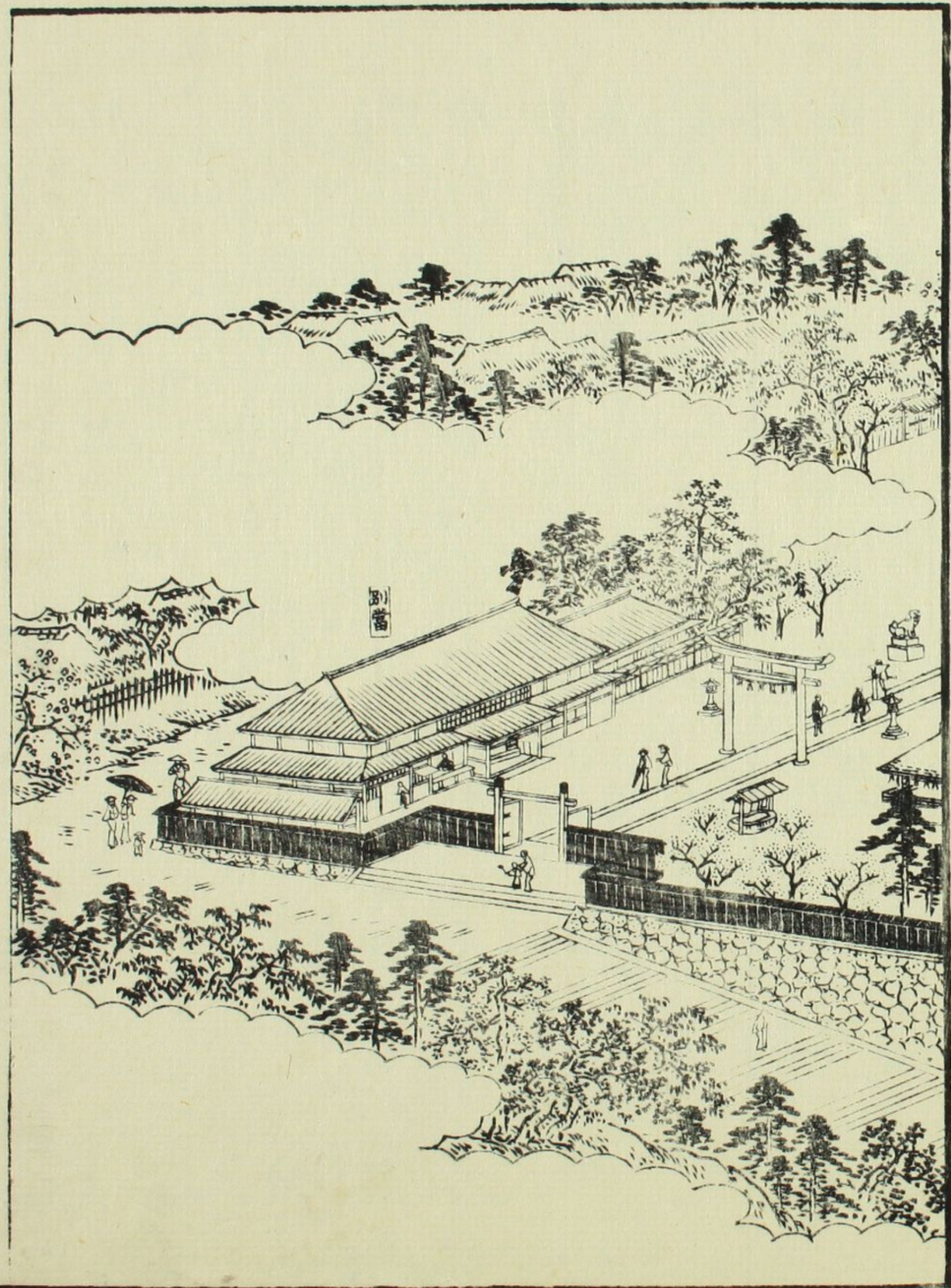
高井戸の方より四家と稱し往來しやせしあり

牛頭天王社 同所傳馬町一丁目二丁目の間の左側の横小路を入る

二丁斗を西より 故は俗字して此小祭神素盞鳴尊 本地佛ハ藥師

本ハ四谷の人家開けし路を天王横町といふ 神主ハ芝崎氏の神田明神 別當を寶藏院也

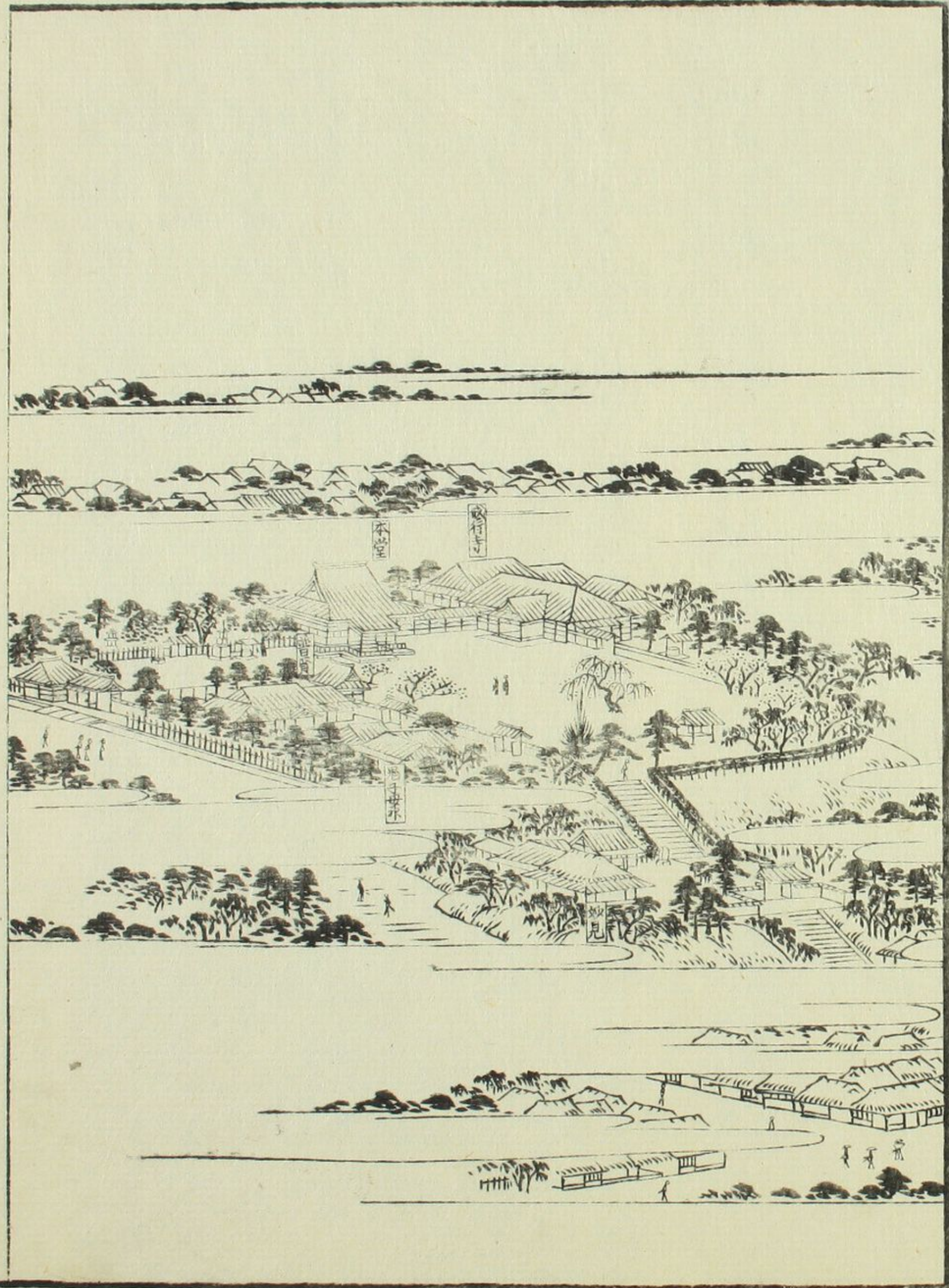
号を 寶藏院 野祭禮ハ毎歳六月十八日同所石切町 傳馬町二丁目の



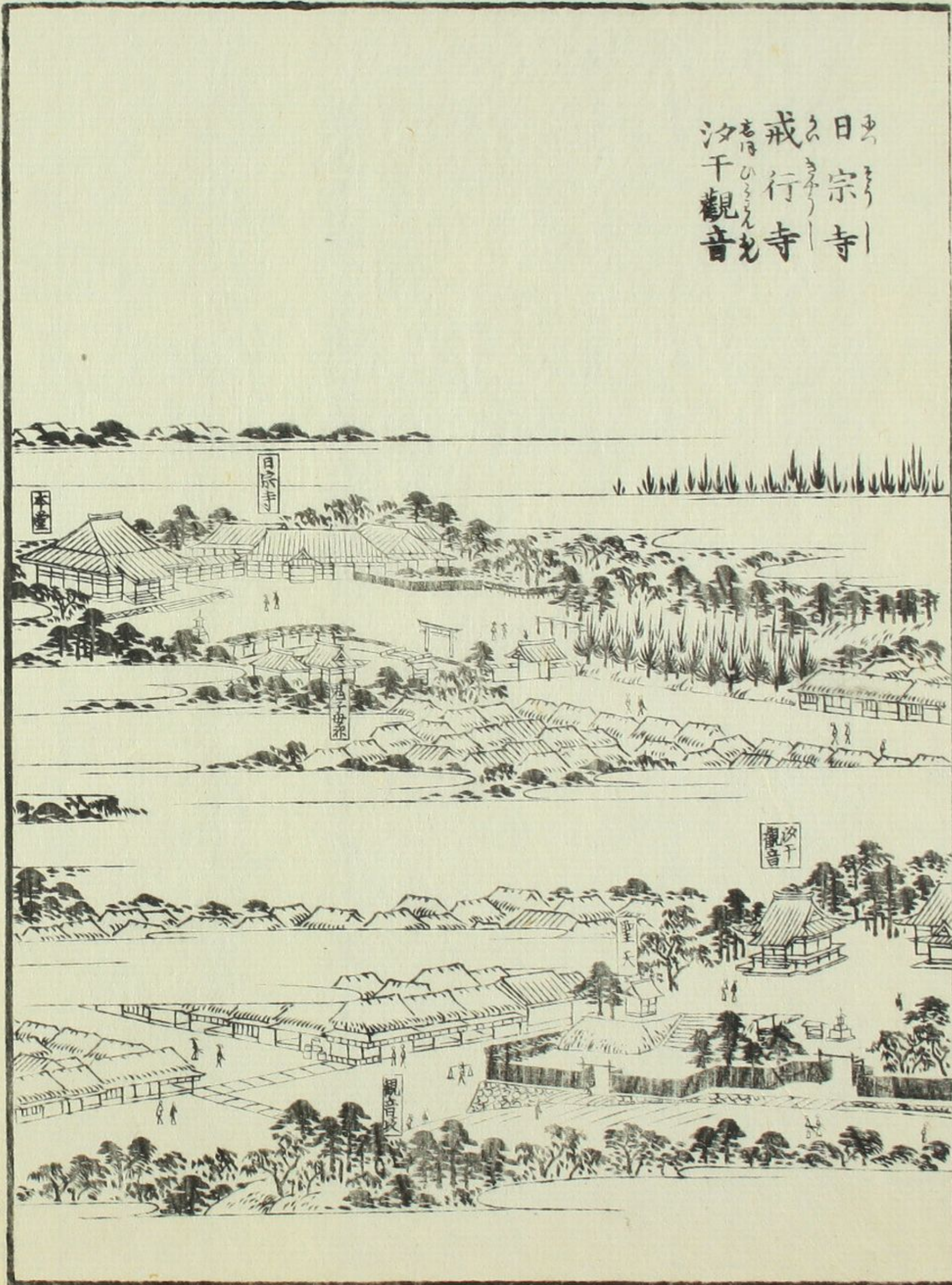
四ノ谷ノ井ノ頭天ノ王社







日宗寺  
 戒行寺  
 沙干觀音



寛永寺當寺三世觀心

本尊聖觀音此者詳なり一尺斗の石の上より立せり

忍原 同所四谷通りの小名あり傳へ云寛永十年癸酉武州

勤番の面々御家人を江戸へ召歸せし此地は地々宅地を

賜ふされと云頃ハ廣原あり故に字は忍原と云呼し

と也忍川と唱ふる地ハ四谷の通り傳馬町の西あり

篠寺 同所盛町三丁目の左の側は有る四谷山長善寺也

と云禪林也篠寺ハ其異名也天正三年乙亥の草創

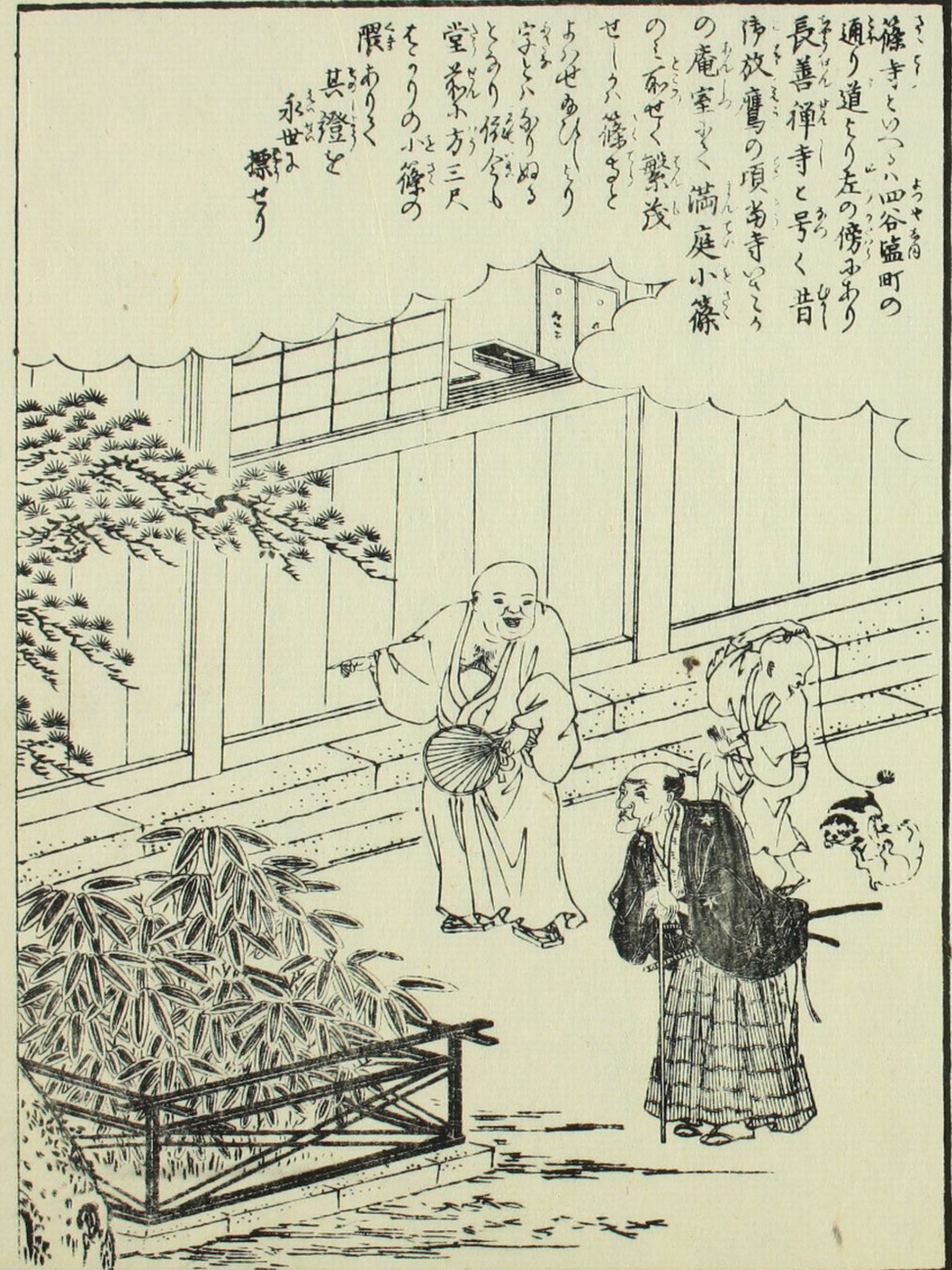
中々開山ハ支叟憐學和尚本尊ハ釋迦如来脇士ハ普賢

文珠傳へ云當寺ハ長善庵と呼び形をうも草菴めく

満地小篠の繁茂せり寛永の比

大樹此邊御鷹狩のと記

嚴命あり篠寺とよませ



篠寺といふハ四谷盛町の通り道より左の傍あり

長善禪寺と号く昔

伊放鷹の頃當寺といふ

の庵室々々満庭小篠

の繁茂せり

よのせぬひより

字ハハありぬる

とあり候なり

堂を小方三尺

もつりの小篠の

嚴あり

其澄と

永世

標せり

あひ此地と寺境よりあり後此名あり故に平證として今と  
堂前より方三尺斗の地小藤の隈に徳門の額に世寺と書  
せし永平寺兼天和尚の筆なり

四谷大木戸 又大関戸 又大関戸 甲州及び青梅への街道なり土俗云霞々関

或ハ旭の関に云と登御入國の頃迄此地の左右ハ谷ゆく  
一筋道あり此關ゆて往還の人を糾問せし近頃を江戸

より附出を駄賃馬の荷物送状あきと通さしとなり

今も猶駄賃馬の荷鞍あきと江戸宿又ハ荷問屋等此手

形を出し通る其遺風あり此故ゆて此番屋ハ町の

持あれは突捧指辰鉄ホを飾置是往古關のありし時の

遺風あらん又同所西の方此往還の道を横りて石橋此

下と右へ流る小溝を櫻川とあり

内藤新宿 甲州街道の官驛あり 此地ハ旧内藤家の弟宅の地あり  
一ノ段町屋とある故に名とす

日本橋より高井土造の行程凡四里餘あり人馬共み勞

を依て元祿の頃此地の土人 官府小許へ新驛舎を取立

故に新宿の名有り然りとて故有りて享保の始廢せし

又明和九年壬辰再ひ公許をゆき驛舎を再興今を繁

昌の地となし 此の地より高井戸へ追分といふハ同所甲州街道ハ  
一里廿五町あり

王子通及び青梅ホへの分道あれハなり

霞関山大宗寺 内藤新宿右側中程大木戸より二丁餘あり

浄土宗ゆて縁山に属す本寺ハ阿弥陀如来ホと惠心僧都の

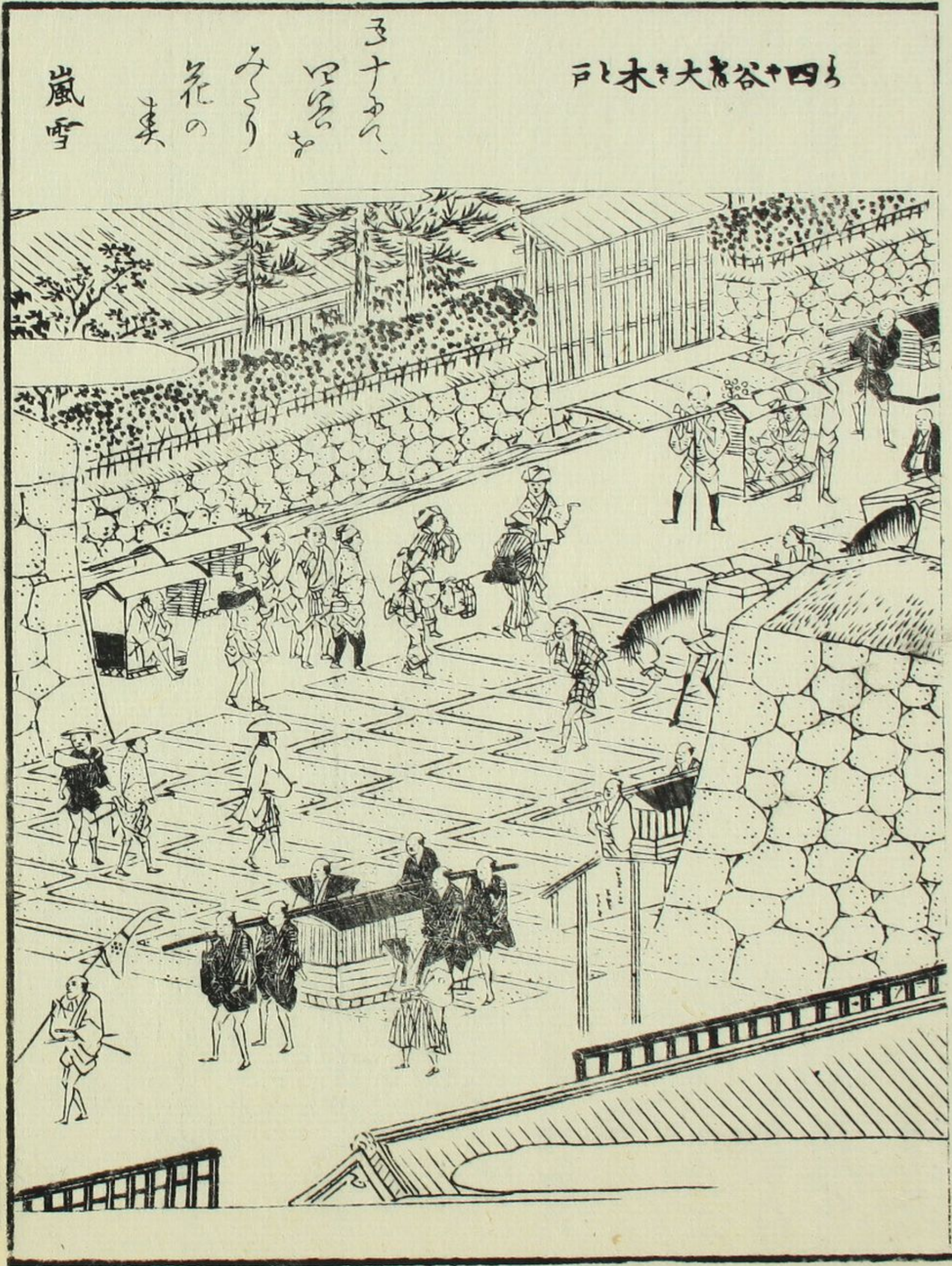
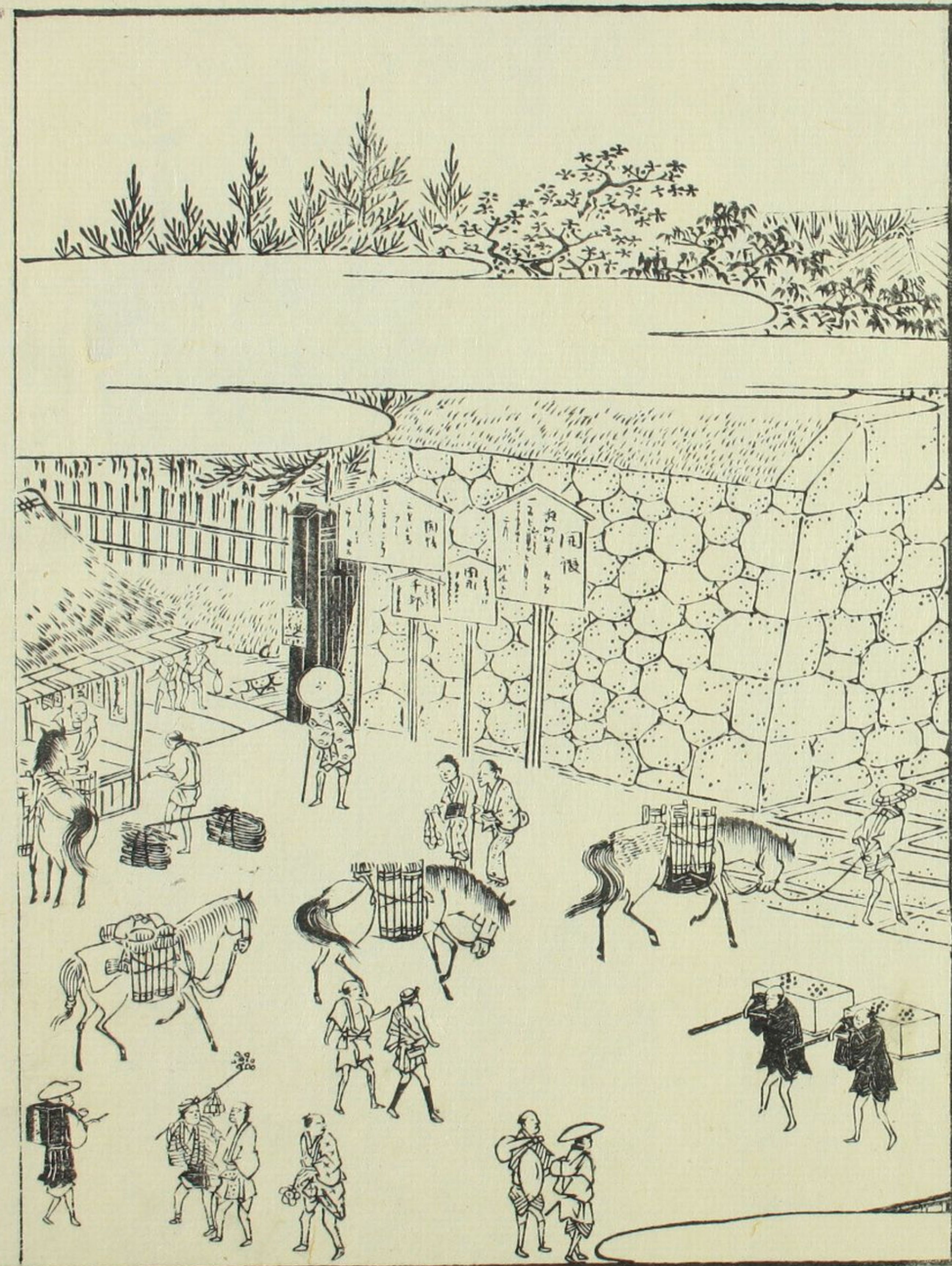
作開山念誓故心学玄和尚と号昔ハ三月ある草菴あり

一と寛永の頃内藤大和守重頼此地を賜り一時此地に

住る道心者ありし重頼若干の地を与へらるる廣路あり

以て大宗なりと云ふハ重頼よりあきとありし寺号を大宗と

付とありしより号とすと當寺牌堂のなま彌陀善逝の像ハ



五十九  
 四谷  
 花の  
 集  
 嵐雪

四谷大木



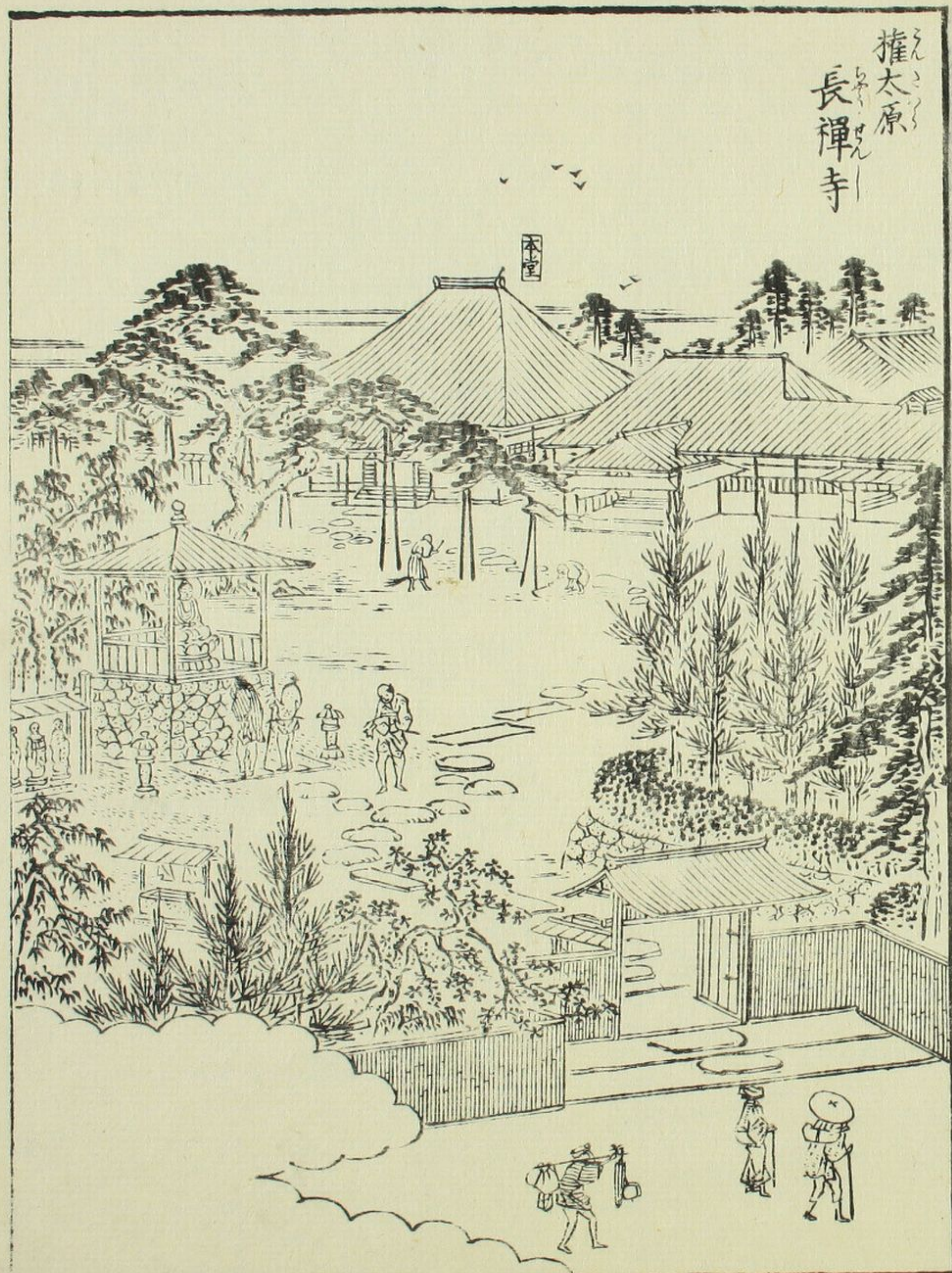


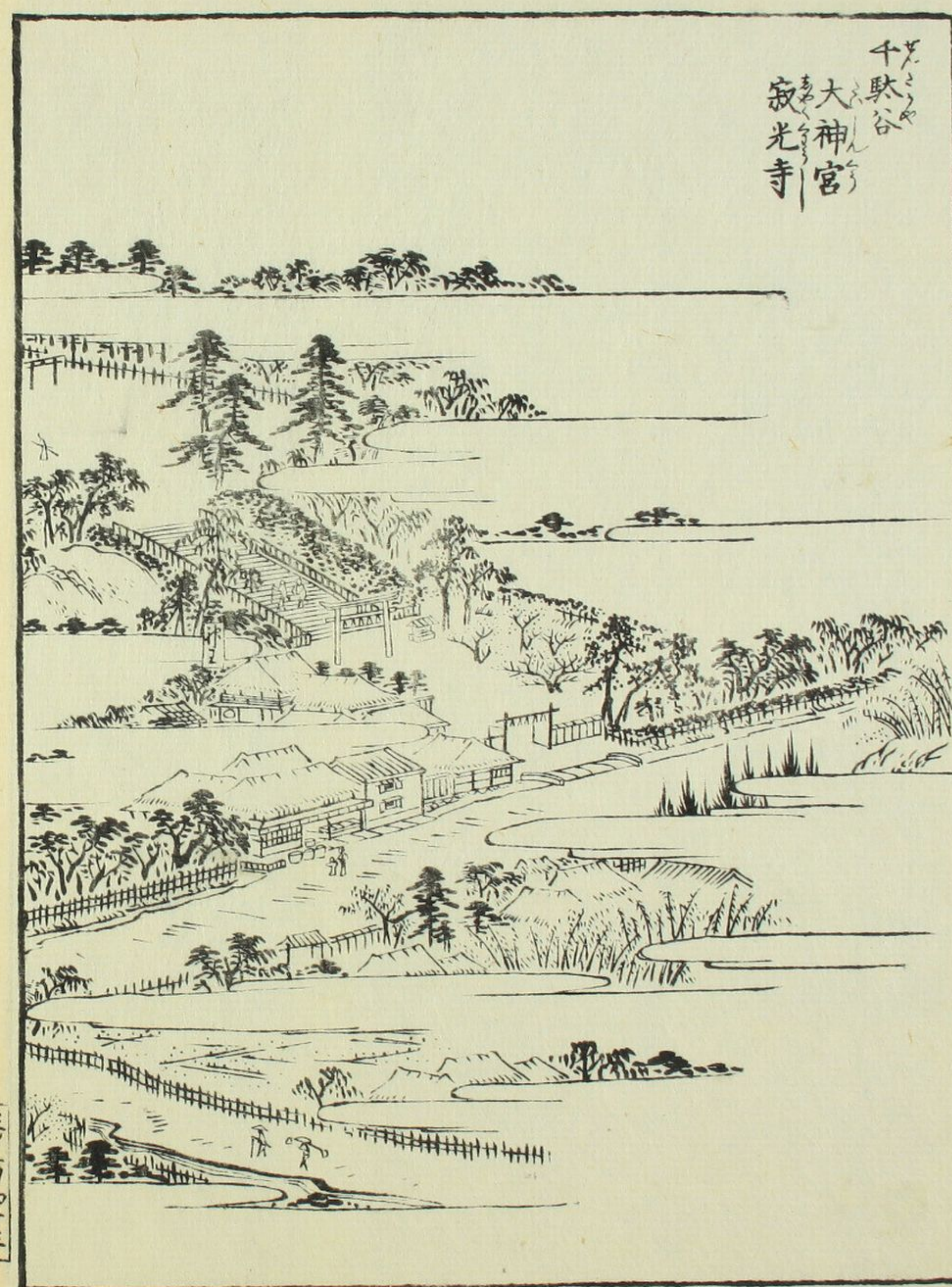


鳥の跡

永固山一行院 敷河橋の西の方千日谷せんじつやに在り浄土宗じやうとの  
 開山ハ源蓮社本誓利覚和尚りきやくわうしやうとの慶長年間けichoねんかん草創くそうしやうを昔ハ  
 僅わずかの草庵くさいあんなりしと永井家ながいけ開基かいきし一宇いちうの浄刹じやうせきとて開  
 山利覚和尚りきやくわうしやうハ則すなはち永井信濃守尚政しやうしやうに仕へりり刺深さしふかし  
 此地このちに庵いあんをむきし千日せんじつの間常行念佛じやうぎやうねんぶつを結願けつがんの時千日  
 不退轉ふたいてんの回向くわうきやうを勤む依より道俗だうじやく群集ぐんしゆせしり千日寺せんじつじに  
 唱へ又此この石いしを千日谷せんじつやと呼よぶなり  
紫の一本といふ冊子にあり  
 橋を渡り信濃原しんねんがはらへ移うつり谷を  
 阿弥陀佛銅像あみだぶつどうざう 権太原浄家長ごんたいらじやうぢやう禪寺ぜんじ境内けいぢんに在あり  
今ハ信濃町といふ又永井原とも云ふ  
 佛像ぶつざうの脊せきに應永十四年丁亥八月廿五日おうえいじゆしよねんていがいはちがつにじふごにちと彫付おぼつてあり  
 旧東本願寺きゆとうほんがんじの佛ぶつは大坂おほさかの御城内ごぢやうぢいにありしと寛永かんえいの頃  
 江戸えどに移うつり當寺たうじに安置あんぢせり

権太原長禪寺





千駄谷  
大神宮  
寂光寺

按、應永十四年、足利將軍義持の時世なり、佛軀をかくとて穴あり、  
吾妻堤、同所あり、往古の街道の餘波なりとて、堤の形念

僅に残るなり

太神宮 同所、涉、焰硝倉の西の方より有る相傳、萬治年間

關東大疫疾流行、富士の根方より神送る、此地

祭る、然るに其神輿の中より太神宮の所、後有り依て此地

鎮護の爲、同所八幡宮の地、祠を建て、是を勸請せ、地

遊女の松 同所、西小隣、天台宗寂光寺の境地、有り

當寺昔ハ、彌町の貝塚の地あり、元祿の頃、天台宗は改む、今の

相傳、此地ハ、往古の奥州街道あり、廣路の原野あり、小

此松樹の鬱蒼とて、采茂、遠く見え渡り、亦霞の

松と号し、寛永の頃、大樹、此地ハ、涉、放鷹の時、鷹前

涉、氣色あかり、此松あり、涉、拳止る故、涉、褒賞  
とて、其涉鷹の名を此松に命せ、遊女と唱へ、先

あふとたり

新日暮里 同所、二丁とて、西南の小川を隔て、法雲山仙寿

院とて、日蓮宗の寺、此庭をあり、此辺の地勢とよ、ひ寺

院の林泉の趣、谷中日暮里に似、頗る美觀、故、日暮

里に相對して、假初、新日暮と字せ、彌生の頃、爛慢と

花の盛、ふハ、大小群集せり、當寺ハ、紀州公卿、母堂、養珠

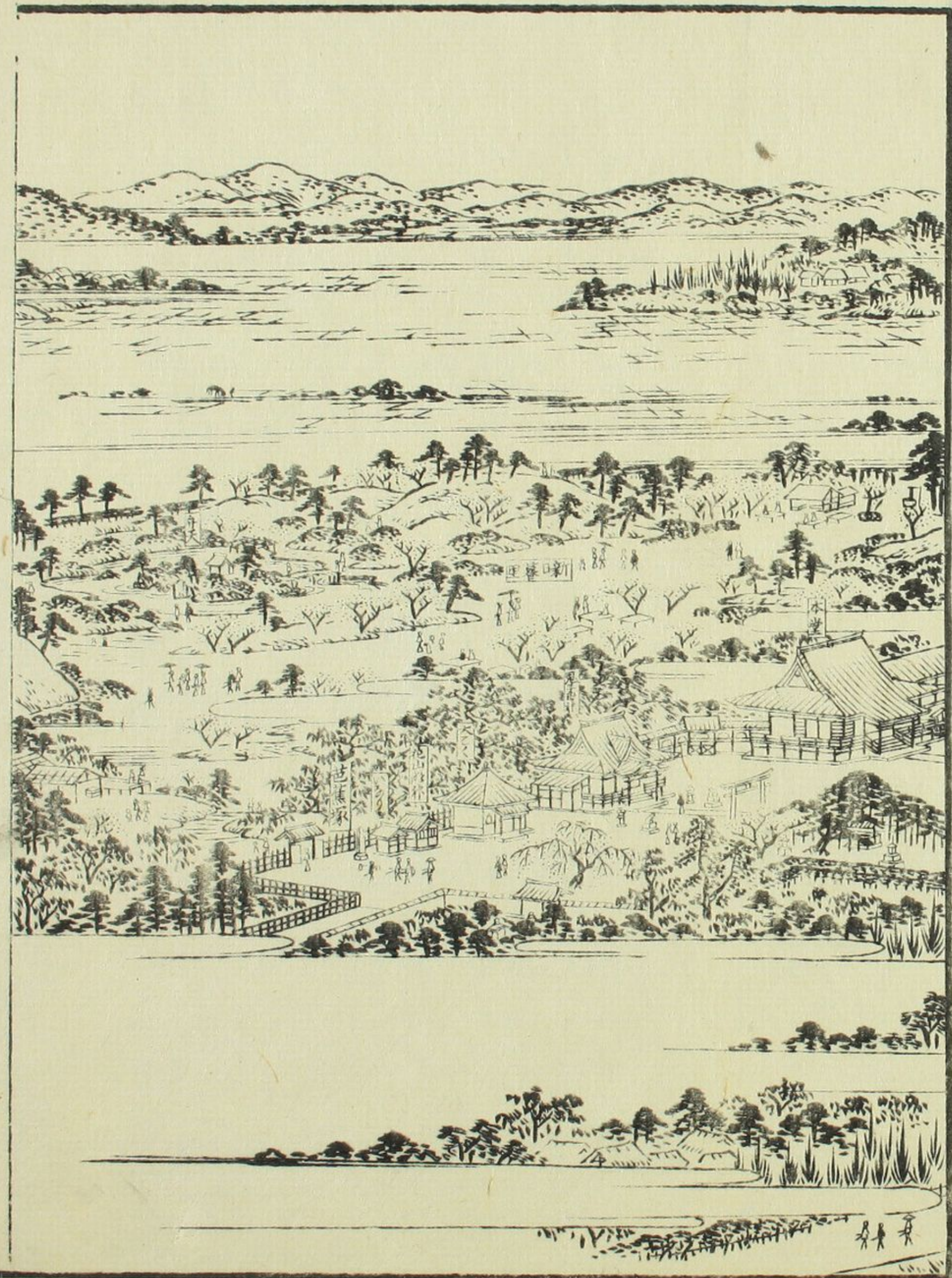
院、日心、大姊、正保、紀元、甲申、草創あり、當寺の鬼子、母神ハ

同、大姊、甲の延、嶺中、靈ルと感、大野の辺、此土中に

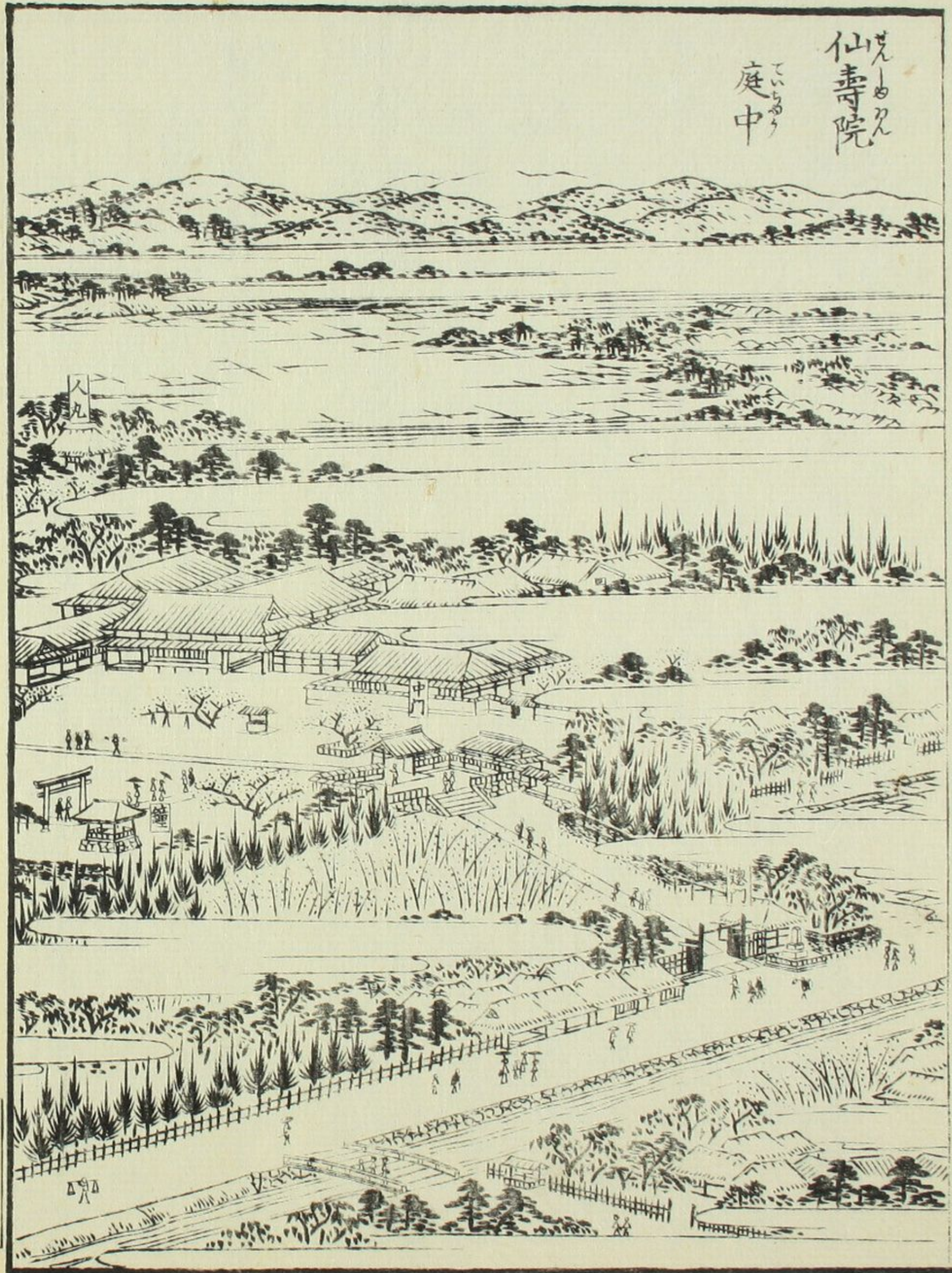
得られて、後、當寺、開創、落成の日、安置あり、同所

一町とて、東南、龍岩寺とて、濟家の禪宗の寺の庭中、小

笠松と稱するあり、枝のまろ、三間あり、ひ

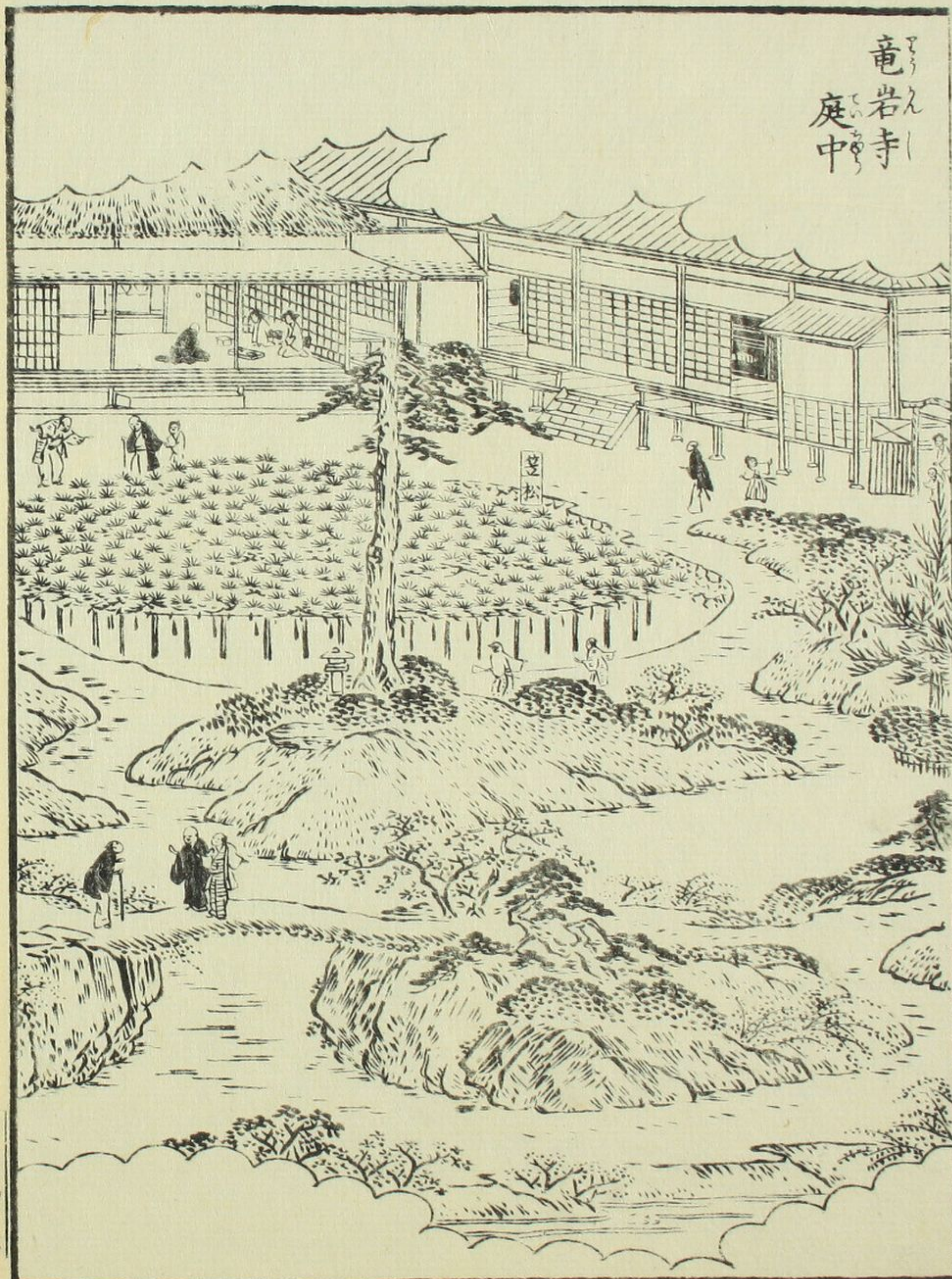


仙せんもものの院いん  
庭てい中ちゆう





龍岩寺  
庭中



千駄ヶ谷観音堂 寂光寺より二町をかり西北の方よりありて観

谷山聖輪寺と号する真言宗の寺に安置也

本尊如意輪観音ハ當寺開山行基大士の彫像也

三尺五寸ありて世俗目玉の観音と字し

往古慶長三年の春盜賊來り此觀

音の目玉を貫き死せり此地の橋氏某目のありて是を

鷹鷲堂宇と再興す此は里民目玉の観音と字したる

縁起曰神龜二年乙丑行基大士東國遊化の頃同年初夏

は暫く此地の息ひぬ時如意輪觀世音傍の谷より

出現し多ひ大士に靈ありて依りて佛意に應じ

古株を佛材とて此を彫刻しなる故小觀谷聖輪

の号ありとの事

千駄ヶ谷八幡宮 同所一丁許西よりありて此辺の惣鎮守也

例祭ハ九月廿七日あり別當ハ真言宗高雲山瑞圓寺

と号す

鈴懸松 此松の老樹有て寛永の頃大樹此地に故鷹鷲の時

社記云往昔此地深林の中は時とて瑞雲現し

或時碧空より白氣降りて雲上り散りて村民怪む

林の下に至るふ忽然とて白鳩數多西を去りて飛

依りて其靈瑞を稱し小祠を營て名つけ鳩森とて貞觀

二年慈覺大師東國遊化の頃村民等大師に鳩森の神

跡を乞求む依りて宇佐八幡宮城州鳩の嶺に移り

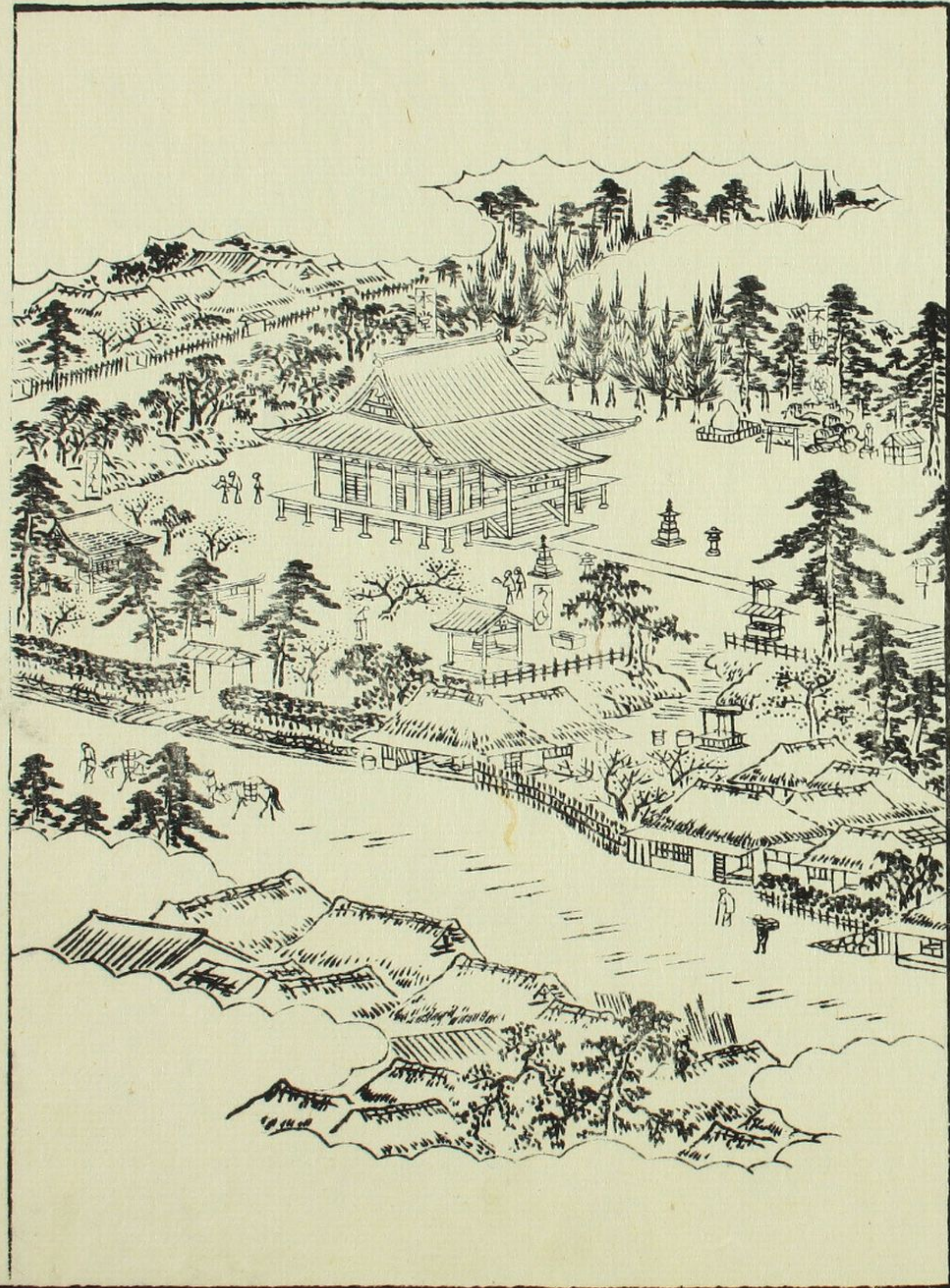
古を名ひて神功皇后應神天皇春日明神等の名跡を

作て添て正八幡宮と崇めりて遙く後久寿年間渋谷

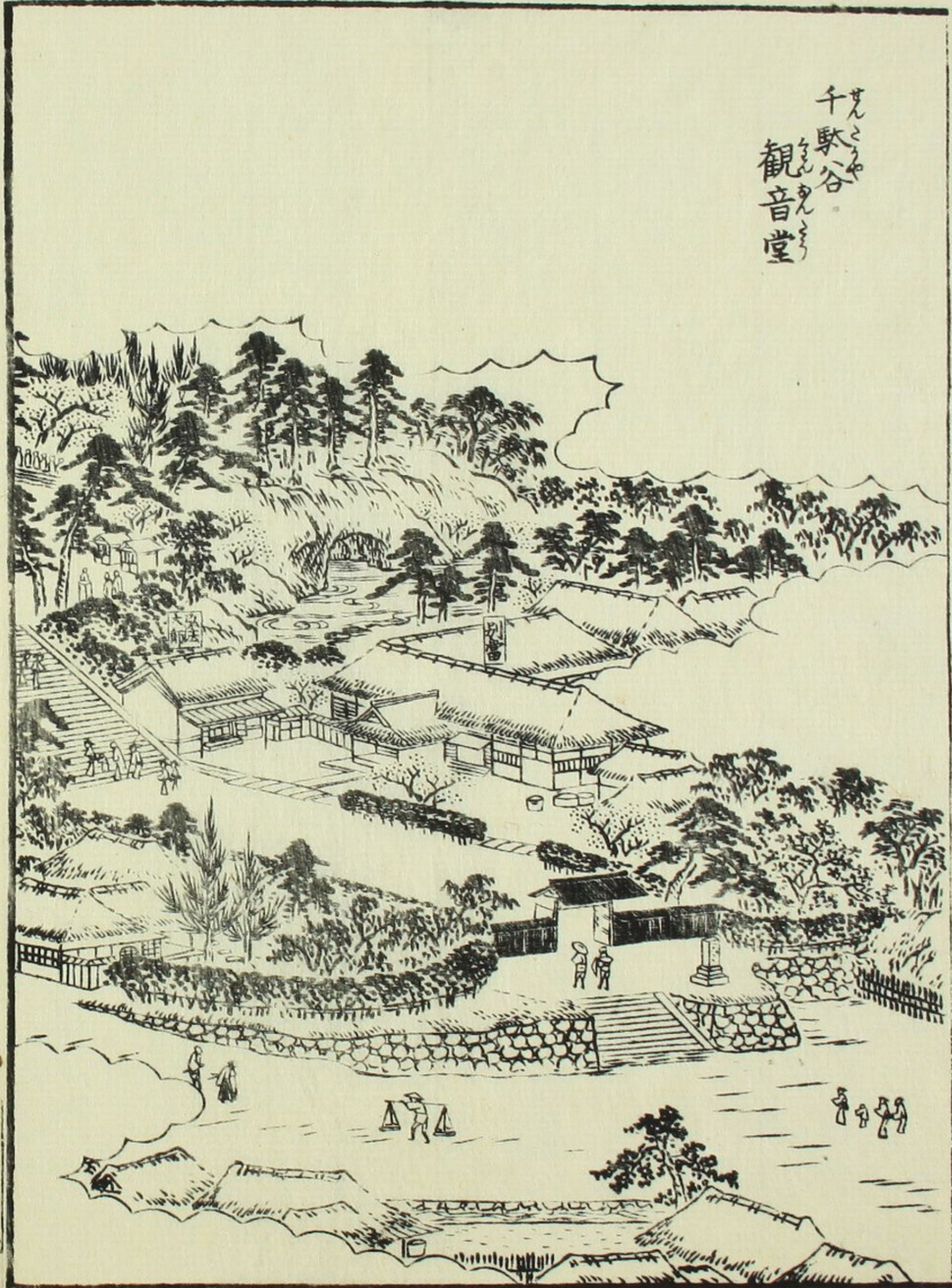
正俊領地に鎮座の神なるを以て金丸生前隨身の

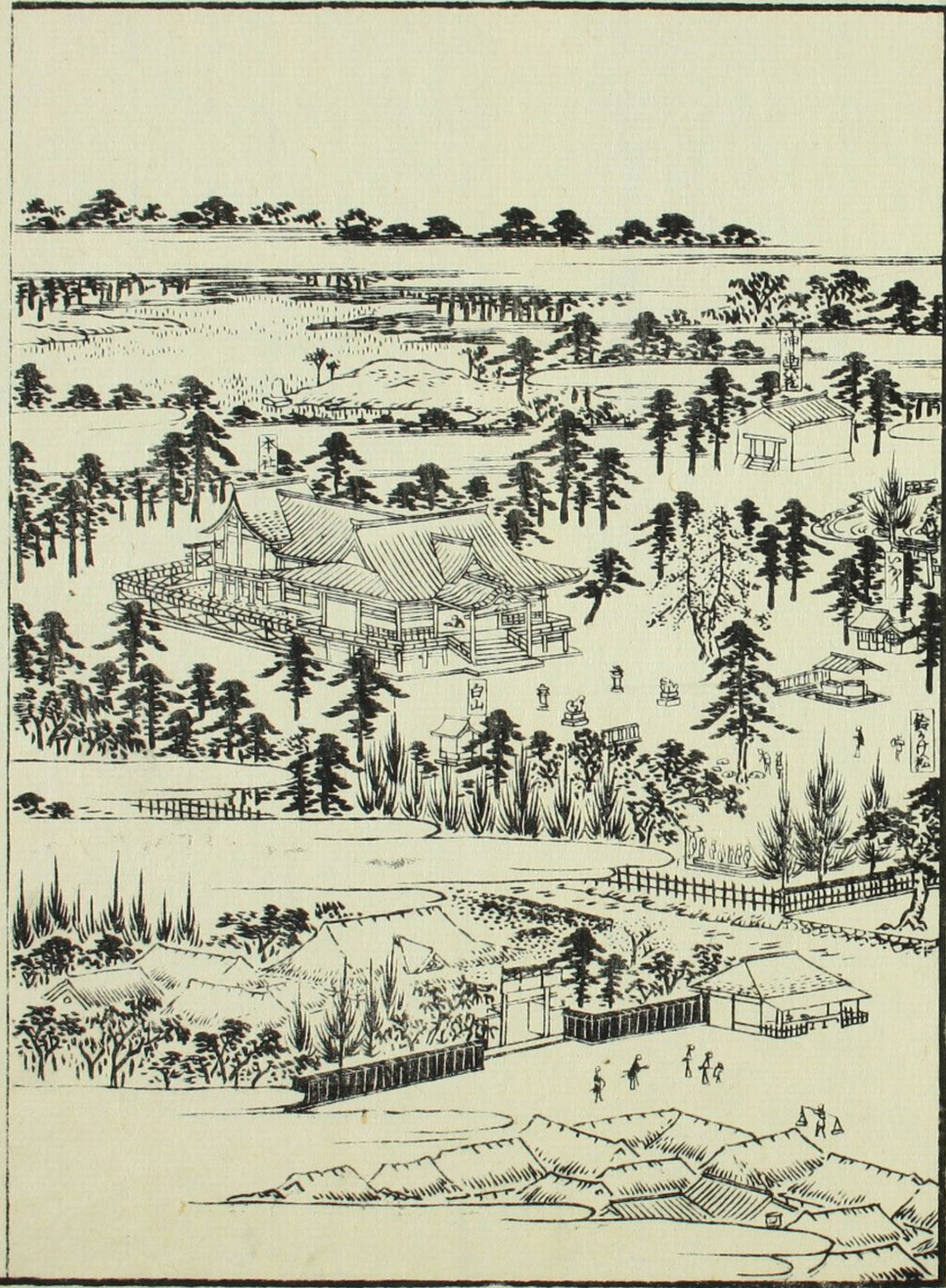
本尊惠心僧都の作の弥陀如来の像を本地佛とて社を





千駄谷  
観音堂





造宮して此地の生土神と稱し（南河内郡云々）より靈應ハ眩ミトシク  
日ノ新あり（鎌倉路と字せり）青山の原宿あり此地とへく大窪へかり  
所領の中（北条家分限帳島津孫四郎）谷の名有（此野も武藏）祭禮ハ  
代々木野八幡宮 同西の方代々木野の河を野の中なり祭禮ハ  
九月廿三日は修治を別當ハ天台宗中々宝珠山福泉寺智  
秘院と号（古ハ知明）作（此野も武藏）

相傳ふ當社ハ往古源頼家公の旗下なり（近藤三郎）  
是茂の家人荒井外記智明と（者故あり）相州を退き  
此代々木野ハ蟄居一宗支と名を改め年月を送り八幡  
宮ハ本國の産土神（より）常（よ）信（怠）る（より）なり  
然ハ建曆二年八月十五日の夜夢中ハ鶴ヶ岡八幡宮の  
靈（ハ）あり（く）宝珠の（心）鏡（を）感得（も）依（て）同九月廿三日  
此地を求め（く）荆棘を拂（ひ）小祠を營（む）初（く）鶴ヶ岡

八幡宮を勸請（し）なり（より）

鞍懸松 同所の岡ハ在り傳へ云源義家朝臣奥州征伐の  
頃此地ハ陣を取（り）此松樹の枝ハ鞍をかけら（し）より此

名あり（といふ）江戶鹿子（といふ）冊子（といふ）  
代々木橋 甲州街道菽窪の立場より三丁あり先の方松

原赤堤泉廻り代々木等の五箇村入合の辻（より）曲折（せ）  
雨の道路を横切（り）流る小川ハ架（は）橋（を）右（に）左（に）流（る）

橋下（に）水（流）橋上（に）土（を）覆（ふ）形（頭）橋下（に）水（流）  
高井戸 此石ハ甲州街道中々驛舎あり（此石ハ一里北五丁上石原）

西（に）あり（小田原北条家の分限帳）大橋氏某の所領（に）  
無連高井堂（とあり）無連（ハ）高井堂（ハ）此地（の）道（ハ）與（准）后（の）

和奇ハ卷四卷堀井の系下（ニ）詳（なり）

和奇ハ卷四卷堀井の系下（ニ）詳（なり）



代々木八幡宮







此川の流のまはりとて布を流さし海まで

又云  
あのみハヤシ松屋の子マシのつらわをぬねてささし  
ツツの澤とさしひ瀨はほくもさすもささし  
伊とあはくさるるのまをさすの月をさす

又云  
張金の鶴う二三羽まひ日ひあり通ひや  
くか川瀬ふゆの用さしあけさるる  
あめえくさるる

此の頃ひの古をわりのひあつさるる足さるる附て云此の地より西海の中まの  
間よ赤屋邑と称さる地あり是れ古相うその家多ありと潤布を流と  
王しは此の名ありあつさるる披す東鑑建久六年七月廿八日の条下は武蔵國  
深瀬別當の要房上野の局の何れなる所別當の近瀬局と云ふ  
あつさるる此の地をさるる又云和名抄白糸布を天都利乃沼乃  
と訓す同書は今按時俗は手作布の三字を用ゆると云く調布を和名  
抄は豆岐の沼能とありく貢よあは布ののりをさるる

布多天神社 上布多驛舎の辺より右の方四丁さるるあり別當ハ

真言宗やく廣福山栄法寺と号し 浅尾王禪 祭禮を隔奉

九月二十五日修す當社祭神詳なり今菅神を相殿に  
勧請し二座とて當社昔ハ多磨川の岸頭ありし洪水の

難く罹るの後今の地へ迂すあり  
今も此地は元天神と稱し  
小祠を敬せりとあり

延喜式神名記曰 武蔵國多磨郡

虎拍神社 同所北の方十丁計を隔て佐須村あり 佐須の古

其の遠裔此地の里にありて軒緯なり今も 社前ハ古松二株鬱叢と  
尊より九月十三日を以て祭祀の辰とす

武蔵國風土記曰 武蔵國多磨郡拍江郷

虎拍神社 圭田七十三束 所祭大歳御祖神也

延喜式神名記曰 武蔵國多磨郡

虎拍山祇園寺 同所三丁さるる東の方あり日光院と号す天台  
虎拍山祇園寺 同所三丁さるる東の方あり日光院と号す天台  
虎拍山祇園寺 同所三丁さるる東の方あり日光院と号す天台

宗深大寺は属せり當寺ハ天平勝宝二年庚寅深大寺の満功  
上人開創する所の佛域なりとあり本尊ハ立像二尺計の弥勒

青渭社  
虎拍社



如来の本佛と安置す作者 本堂の向拜の掲る所の虎拍山の

三大字ハ筆着とあり

薬師堂 本堂の前右の方より薬師佛ハ立像御長一尺

此堂宇二百有餘年とあり前迄ハ此地より東南の方三四十

歩を隔て耕田の中ありとあり今古薬師堂と其頃屢

賊の為ニ佛器の類ひと棄つれとあり佛龕の内ニ弘法大師の

遷せしとあり今薬師堂より一丁程南ニ薬師堂面と字し一及六町ニ

狛江入道旧館地 祇園寺より良の方六七町を隔て二百歩あり

の岡なり空堀の形なりと厳然とて残り此地ニ入道崇むる

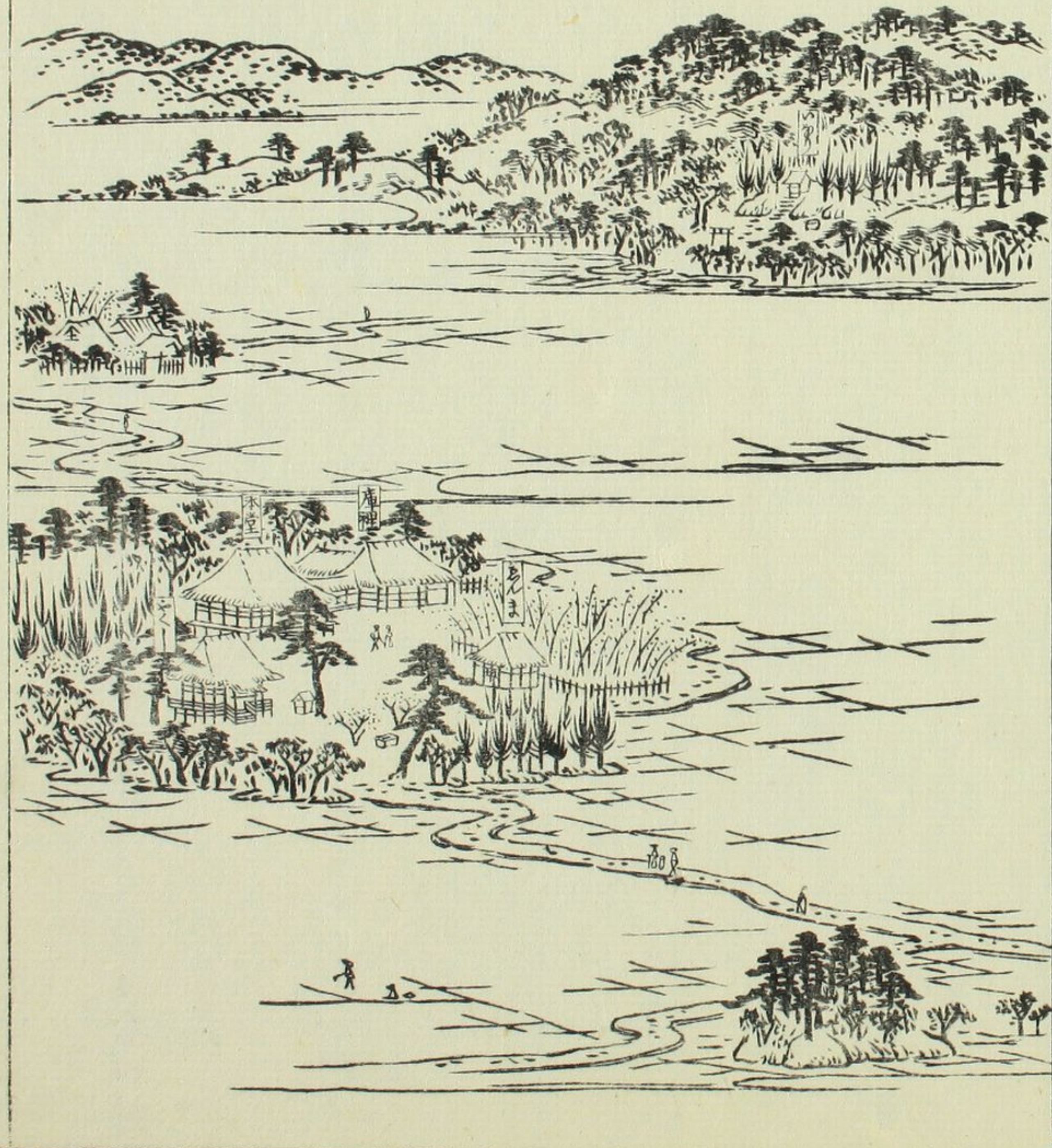
所の稻荷の小祠あり土人里の稻荷と稱す祠前極の老

樹一株六圍ありありの存せり東鑑ニ承元二年戊辰七月十五日

武蔵國威光寺領内小札入一田と川根籍小及山由院主の像圓海



伯江入道  
 旧跡  
 祇園寺



評云とありを奉り 本伯江を誤りたるものありん又云  
 十一月七日二品入落供奉の人名の内小駒江平四郎といふ名を注す  
 按日本後紀小仁明天皇の兼和十一年甲子五月武蔵國多磨郡伯江  
 郷より節婦を以てすを載らるるなり 州本伯江は作らば伯を誤れり  
 せり武蔵國風土記殘倫ゆも多磨郡の内は伯江郷といふ地名を平四郎  
 和名類聚抄中同一郡の郷名は伯江とあり古が江と訓すされと此  
 地を今佐須村と称ふあるも多磨川の北宇奈根村に隣りて駒井邑と  
 呼ぶ地あり恐らくは伯江の郷の移記なり 北条家の限帳は多波川の北  
 駒井本郷太田報六郎知妙の邸にあり此駒井の旧地あり  
 青渭神社 虎拍神社より北の方深大寺村の中より土人  
 此地を字々天神ヶ谷戸とてと祭神詳ならず世々  
 青波天神とて稱せり相傳ふ古ハ社前ハ湖水ありし  
 青波の稱ありと社前楓の老樹あり 数百餘霜を經る  
 そのなり  
 延喜式神名帳曰 武蔵國多磨郡  
 青渭神社云云  
 按神名帳は青渭とありと今本阿遠伊と訓す土人云古當社の前ハ湖  
 水満々たり故ハ青波の稱ありとあり今青波ハ作らば阿遠葉と訓さるハ  
 擾あつふ似たり 後同卷青渭明神の条下と意照てらるるなり

龍渭堤 青渭神社の辺あり古ハ青渭の湖水湛々として後  
世堤と切開く水と乾く耕田とあすとり故に今此  
彼亦六七歩或八十歩ある塚のやまの残り存  
草樹繁茂せるハ其堤の跡ありとの

浮岳山深大寺 昌樂院と号し深大寺邑あり  
里と号せ大古ハ法相宗あり一惠亮和尚以来天台宗に改む

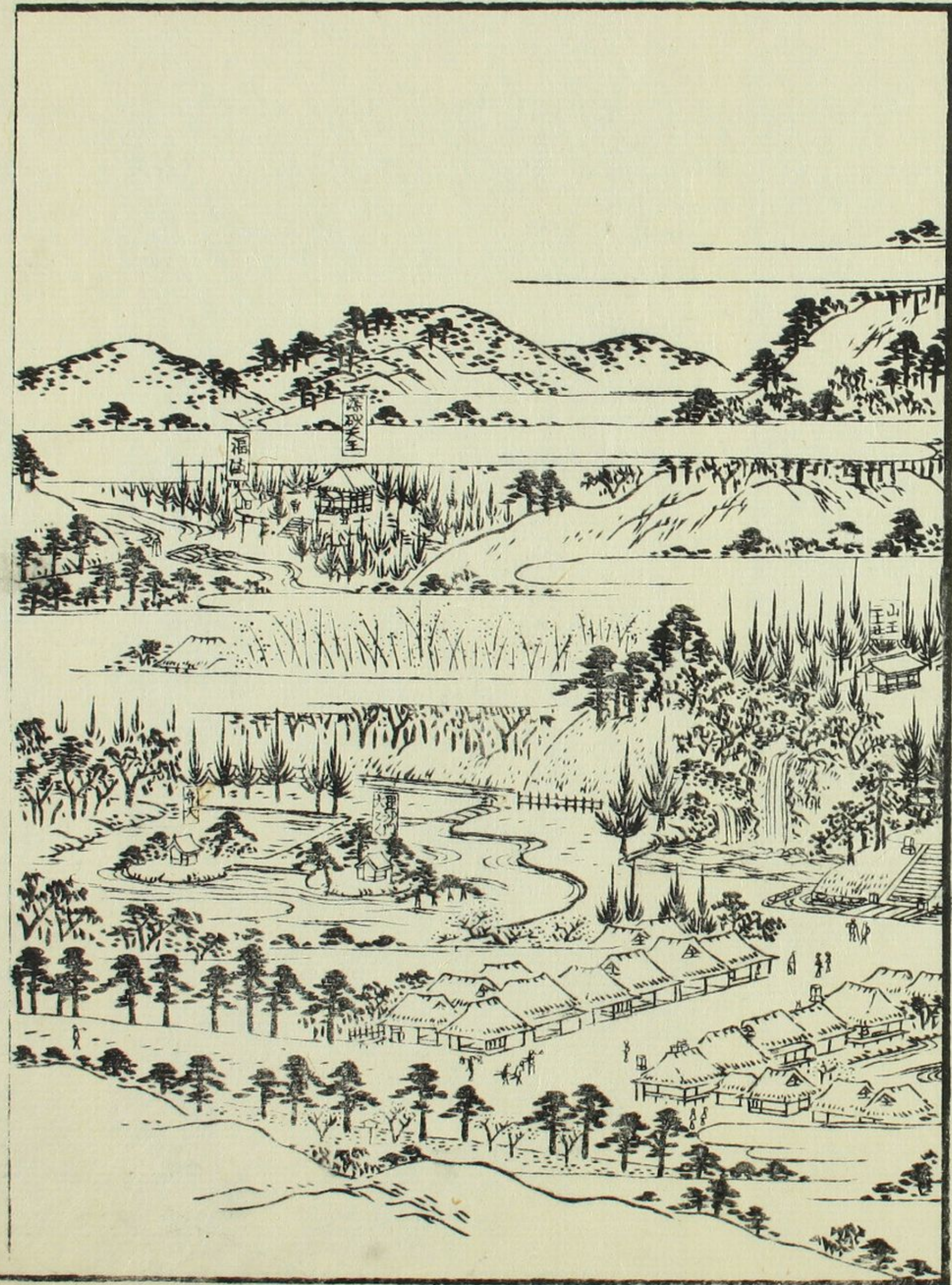
本堂の宿願ありて天平五年癸酉に草創する所  
福満童子の宿願ありて天平五年癸酉に草創する所

佛城なり 日本年代記合鈔に天平勝宝四十七代廢帝御宇  
小勅頭所と定りしより平城清和兩朝も又勅頭所と

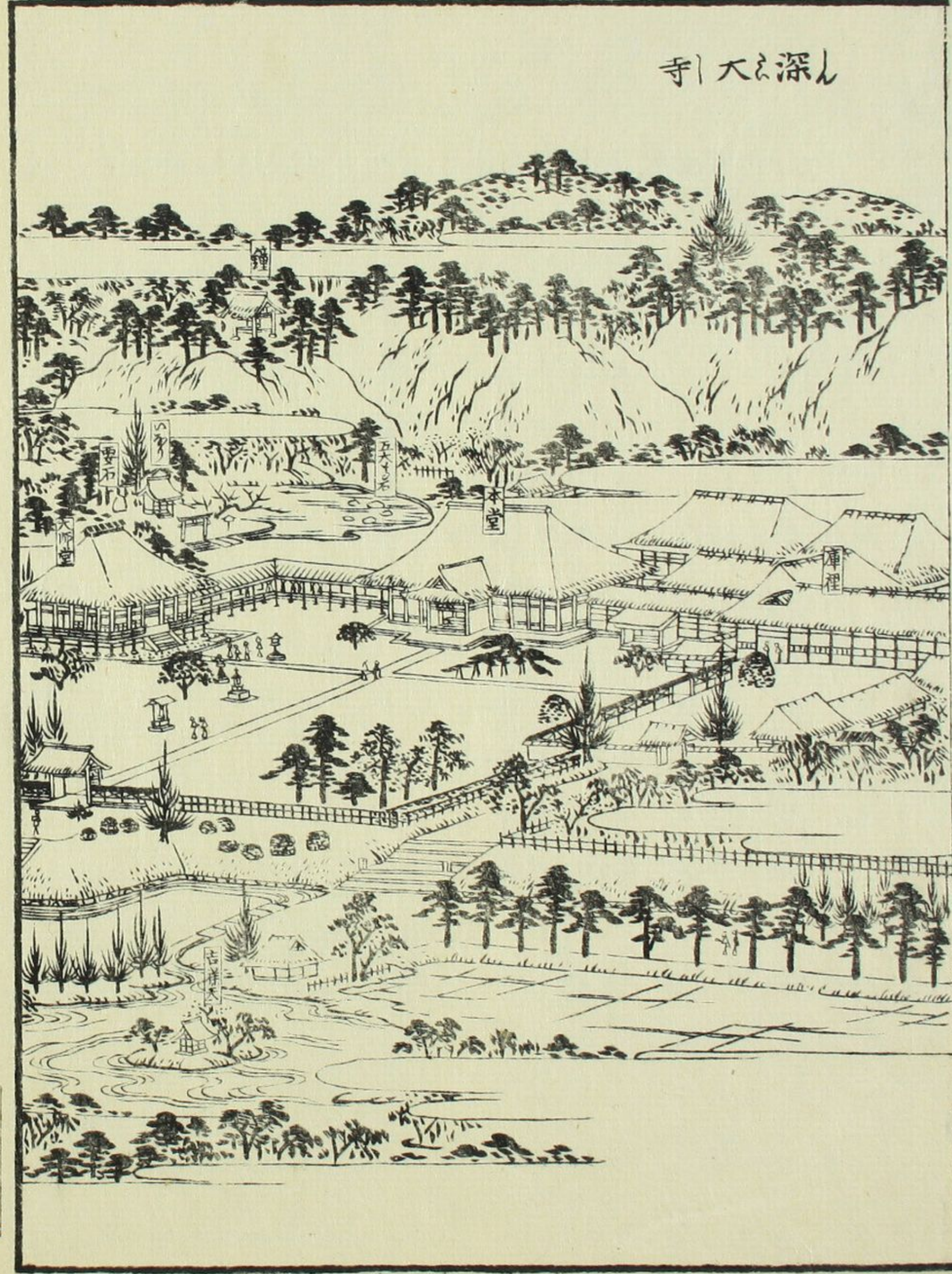
元三大師堂 本堂の前左に傍てあり寺記に云應和四年惠大師  
和尚と惠心僧都と心とひとつ武蔵國深大寺ハ代々の帝勅願の地中  
を霊跡とて永く此點像を建し置りて關東の群生を化益せんとして應和

年の春三月八日別業護摩供を修行ありた近郷の人群参り此日門  
前ハ市を立す 先の靈像と共ニ菴山に當り座五大石 大師堂の北の  
峯 魔尊像 此水早瀬に感ずるやと云々 土人早瀬の要石 中島稻荷の  
中ハ此水早瀬に感ずるやと云々 土人早瀬の要石 中島稻荷の  
宮の傍にあり昔此山崖あり崩れしを骨雨ありと云々 鐘樓 大師堂の傍の  
鐘の傍にあり昔此山崖あり崩れしを骨雨ありと云々 鐘樓 大師堂の傍の

武蔵國多東郡深大寺 長四尺三寸 口二尺三寸 雖治  
右伏以當山浦牢開基以來革更其數不一或雖治  
鑄有破裂而無聲或雖討得有薄畧而三寶垂感諸  
數降臨勅力廻皇命風氏遂鑄日弥明如藍鎮靜法輪  
常轉更乞諸檀施主二世善願一切成就仍昭銘功  
德其辭曰 山名浮遊 新鑄息鐘 声形卓犖  
百千劫 定人正覺 驚起塵夢 消除煩濁  
滅罪生善 丙辰八月十日 大工山城守宗光  
永和二善 丙辰八月十日 大工山城守宗光  
龜島辨財天祠 齊門前大行僧正法印大和尚位守慧運

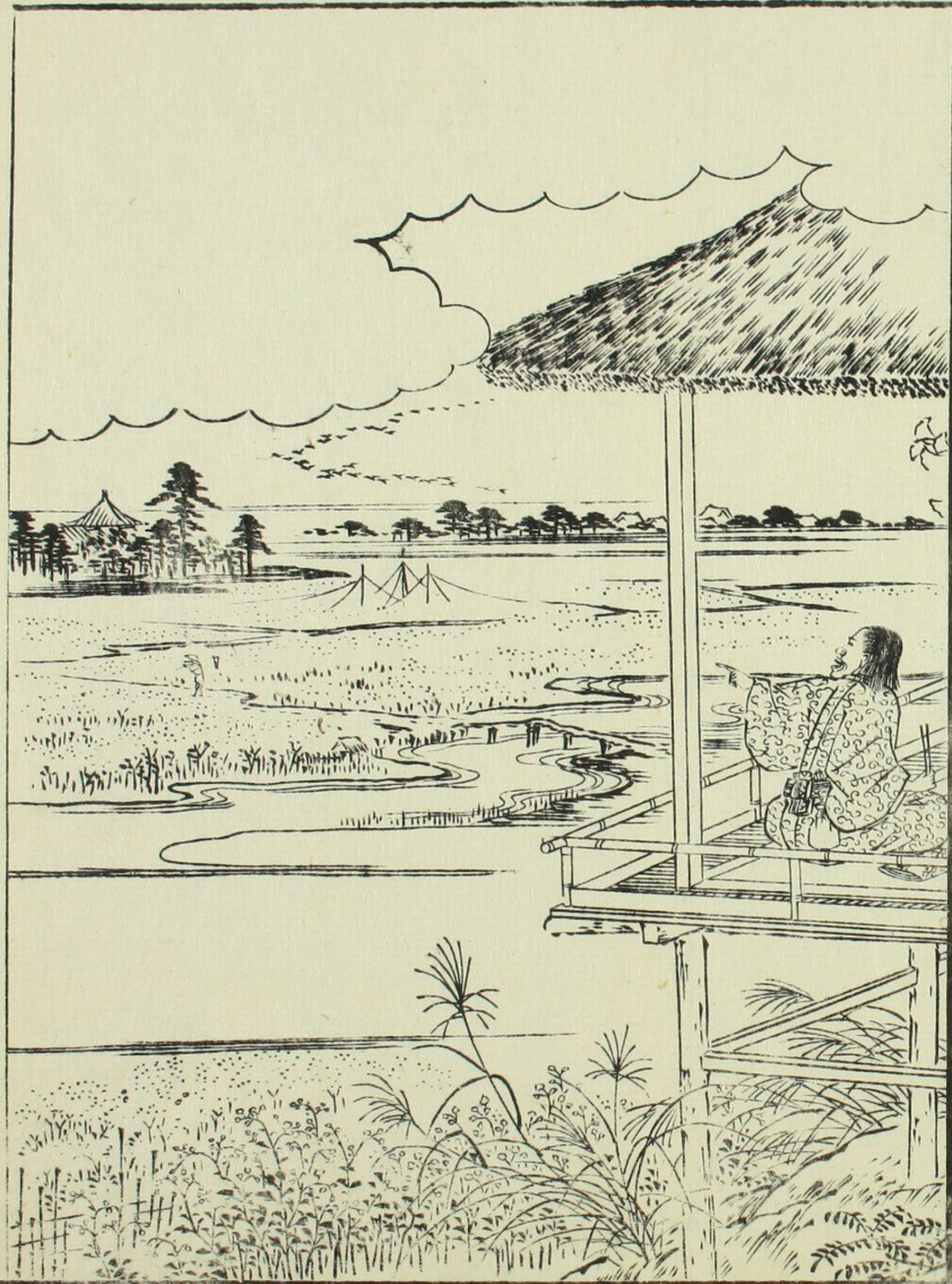


寺大深ん



三百五十八





深大寺蕎麥  
 中して  
 味ひむ  
 佳あり  
 都下小  
 村にて  
 深大寺  
 蕎麥  
 とよ





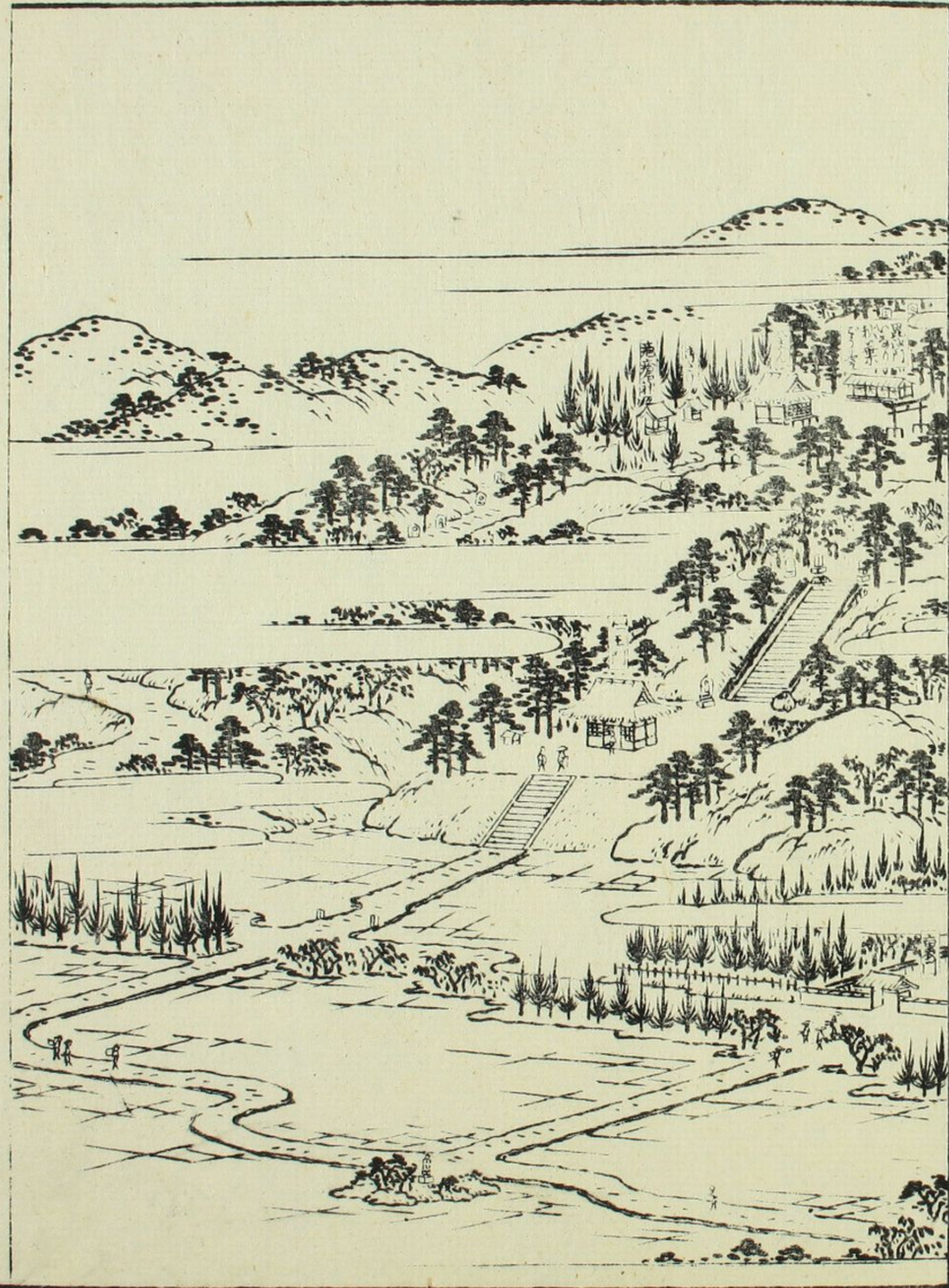
城山と呼び今ハ麥畑とあるところも此所彼所ハ湍池の形  
残り此地ハ往古 清和帝の御宇藏宗卿武藏國司  
より一時こゝに住せられり一田館の跡や々々天文の頃上杉  
朝定の家臣難波田禪正忠廣宗松山の城の出張としてこゝハ  
城廓と構へり

北條五代記曰く上杉修理大夫朝興の嫡男五郎朝定生年十三歳わく家と  
繼武州深大寺とつる古城を再興し北條氏綱綱向ひ引矢の企企あり  
とつる茶下此暉ハ天文六年されけし中中ありその相相のいいはれり  
難波田ありありとつるを松山とて北條於山中に據り  
よせ一首ハかくとて

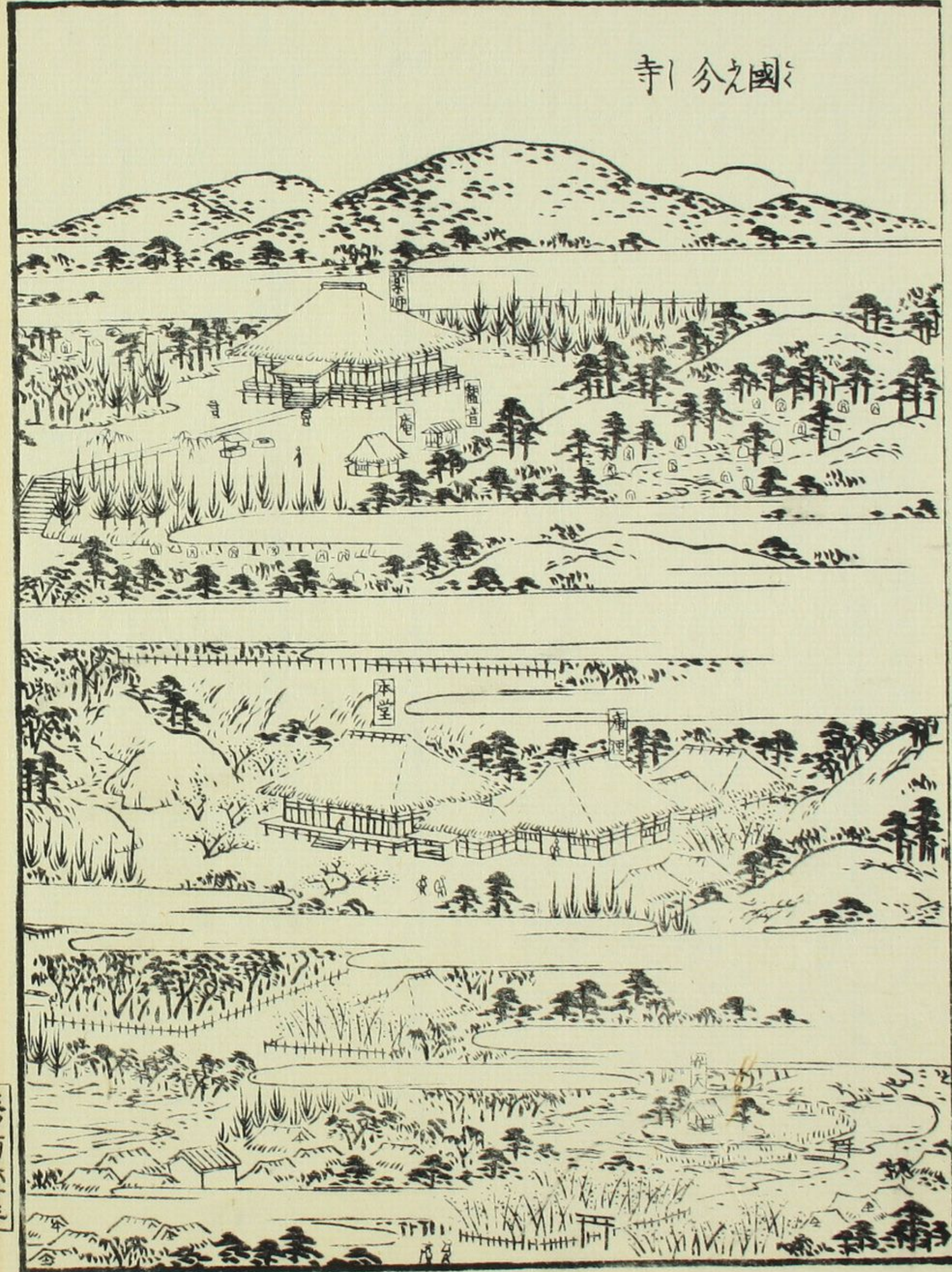
と備備菅菅幹幹はまきりけし難波田もすするあり武士とてそのを引矢と  
我作りつる古今集の奇をとりあり返返谷ありつるをわくつる松山松山あり  
とつるぬくありぬく主君朝定を館に置難波田とつる松山松山あり  
願もこゝろ一身を全はく君つる忠臣の法とありあり作者との功者とい  
うけひとあり勇者とてか人つる云々  
深大寺城跡 深大寺佛堂の後の方の山續中々中間六七丁と  
隔り空堀或ハ柵門杯ありと覚覚り形今猶嚴然と

北條五代記ハ大永四年の頃氏綱江戸の城を築み上杉  
匠作ハつる河越の城ハ引籠り十余年の春秋を送り迎  
ぬつりより例ありす心つるをひて天文六年の卯月下旬  
世を早く去る嫡男五郎朝定生年十三歳中々家と繼  
あひぬてのれハ七ヶ日の服忌と経経をく道をおくあり兵を  
起し深大寺とつる古城を再興し氏綱へ向て弓矢の企あり  
かりとあるハ則此所ののりなり

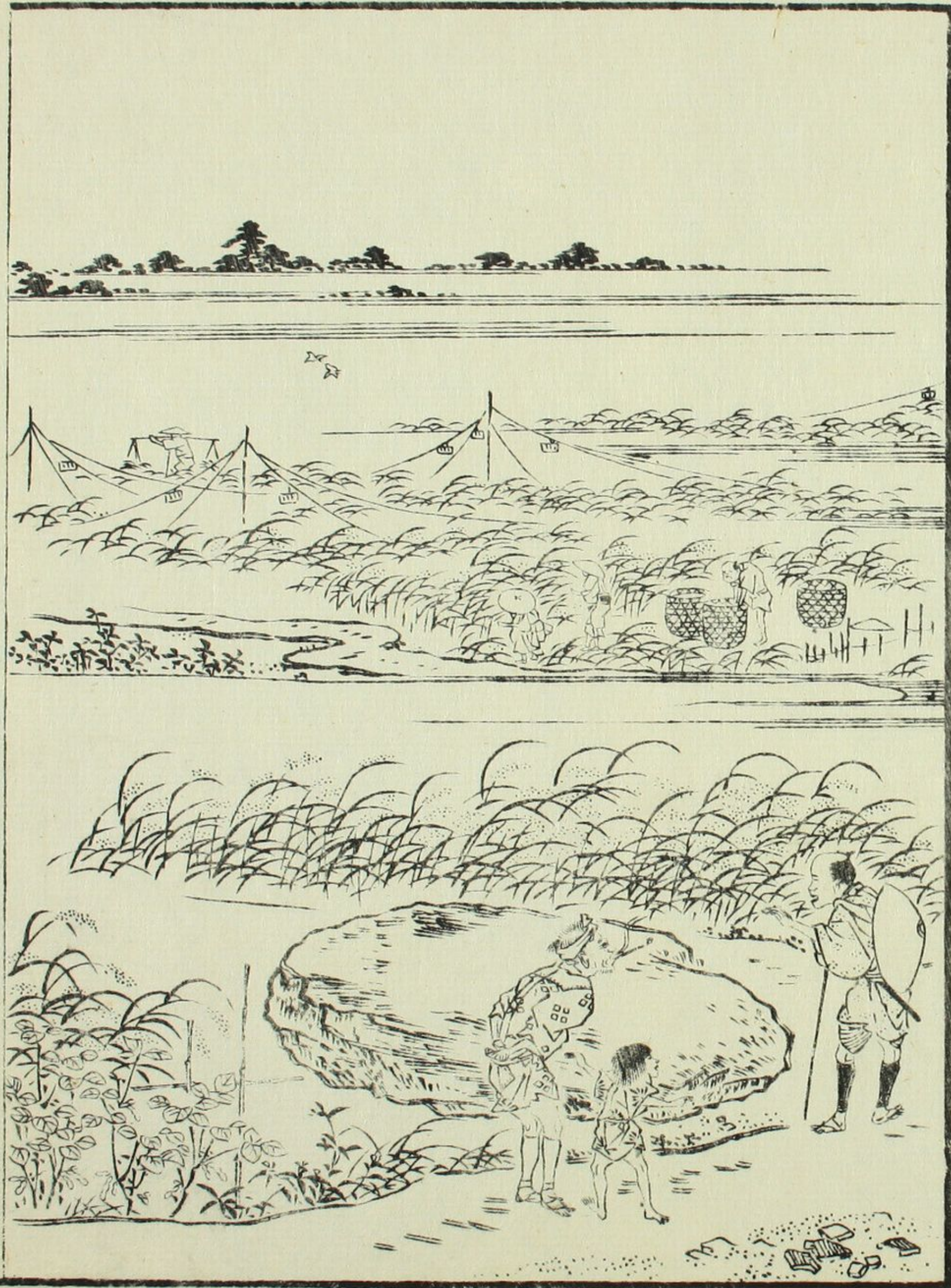
醫王山國分寺 寂勝院と号國分寺村あり府中あり北の  
於十八町を隔り當寺ハ天平年間行基菩薩草創する所ハ  
一々 聖武天王の勅願所なり中興阿闍梨と号  
今ハ新義の真言宗なり  
藥師堂 本多藥師如來 服服士服日日光光月月光光十三神將の像像あり  
額 塗塗光明光明四天四天 深見玄岱山筆 阿闍梨阿闍梨行基行基大士大士の作作なり



寺分之園

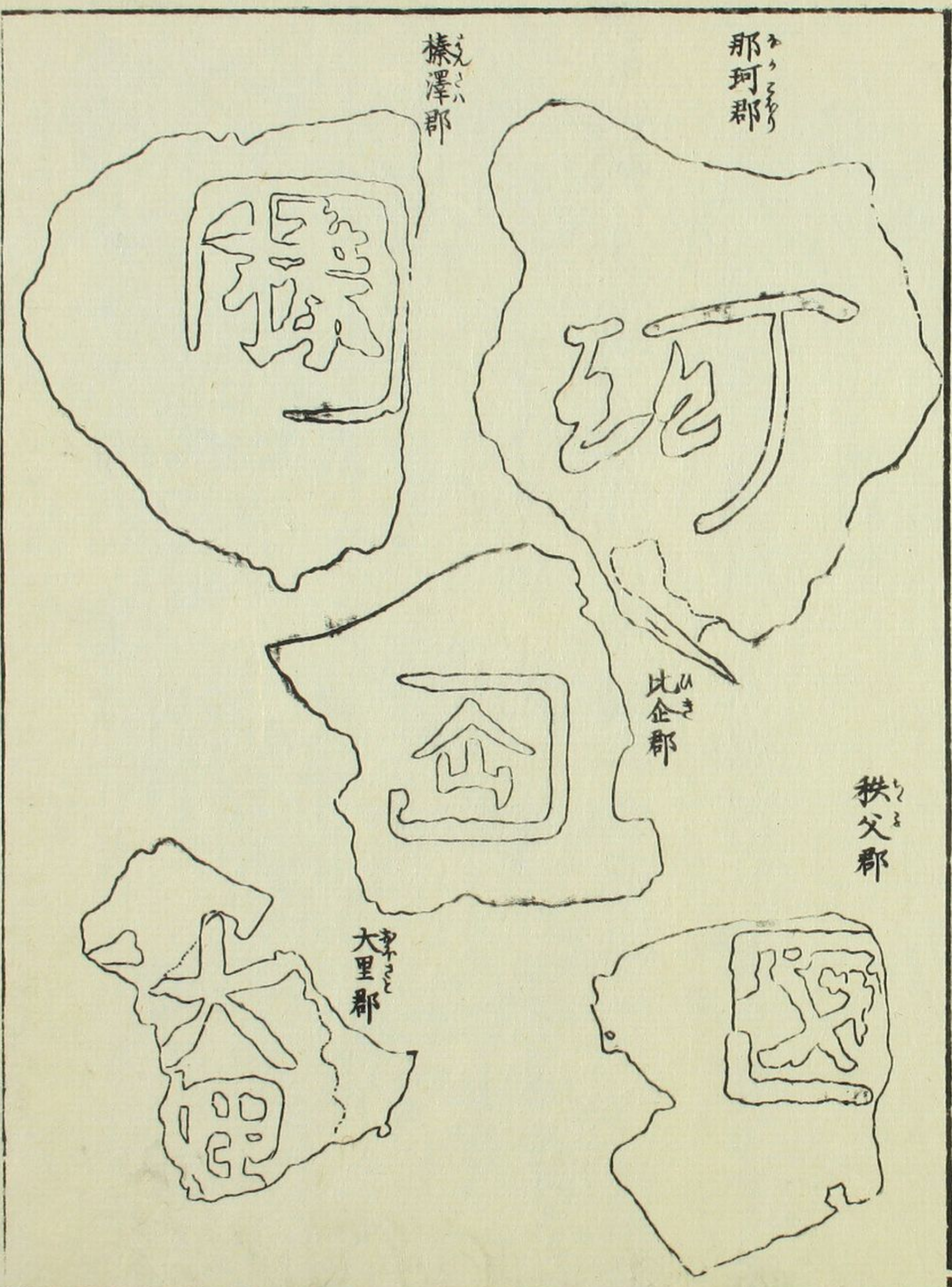






國分寺  
伽藍旧跡





二王門

石階の中腹あり金剛密迹の二像を置作者未詳  
堂林ハ古のころの中へ舊地ハ半丁あり南あり

續日本紀聖武紀曰金光明寺法華寺下畧十一月己卯詔天  
下諸國別令造金光明寺法華寺各四十萬  
喜式弟二料五卷東曰藥師寺料四萬二十束梵釋四  
東國分寺七料五卷東云藥師寺料四萬二十束梵釋四  
鑑曰并建久五年可修復破壞之旨被仰下綸旨於國  
一宮并國分寺三年修破壞之旨被仰下綸旨於國  
書曰寬喜三年王經之由被仰下開東御分國々  
分寺可轉讀最勝王經之由被仰下開東御分國々  
行然奉行云云

たのこ... 於世を... 寺の... 称名院

二王門跡

寺前半町ありを隔て南の方の  
畑の中ハ礎石を蔵せり

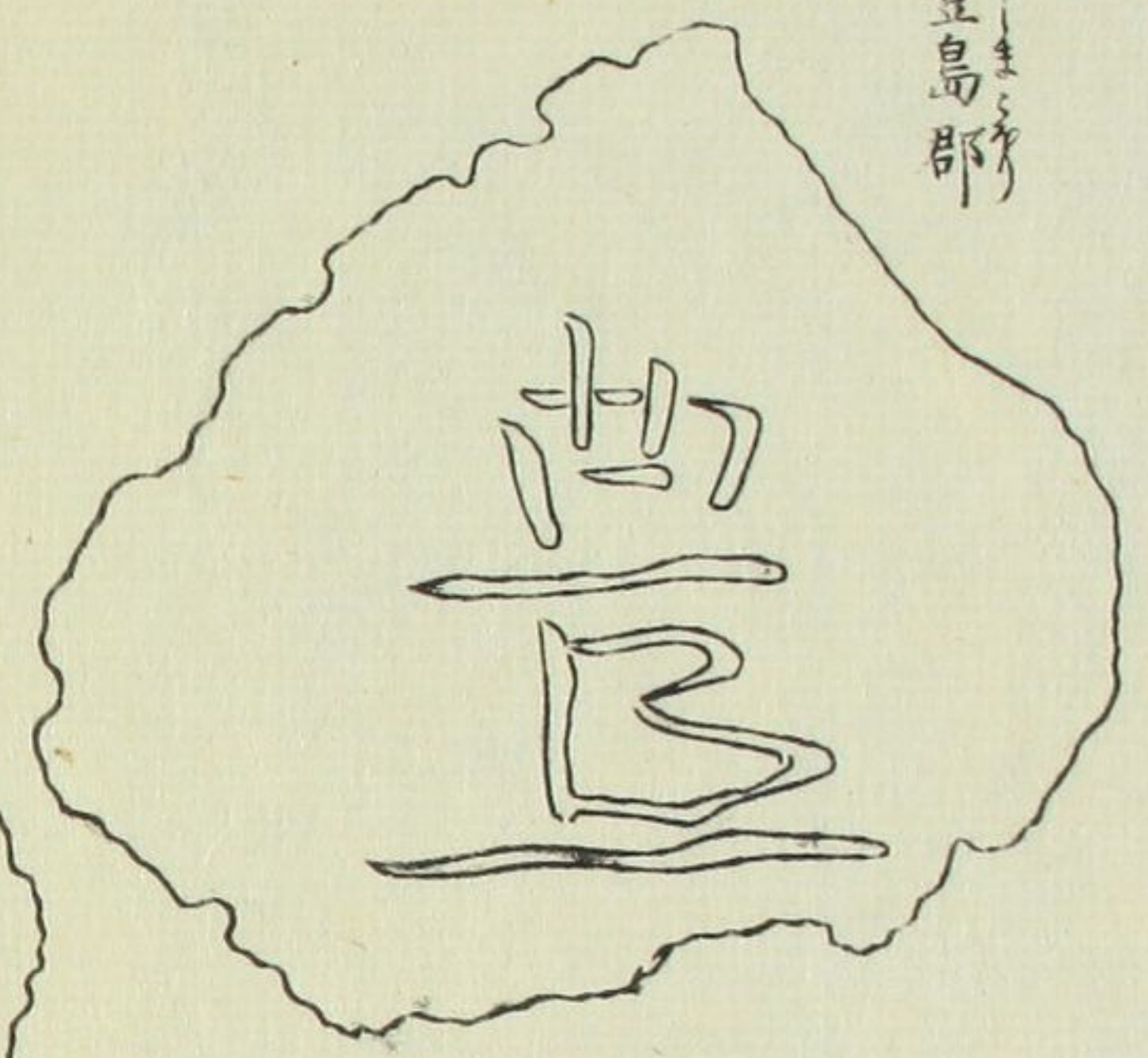
層塔跡

國分寺の北東南半丁ありを隔てあり草樹繁茂  
の中真を収るありと云々中み徑三尺と云々石を置ける空穴ありと云々

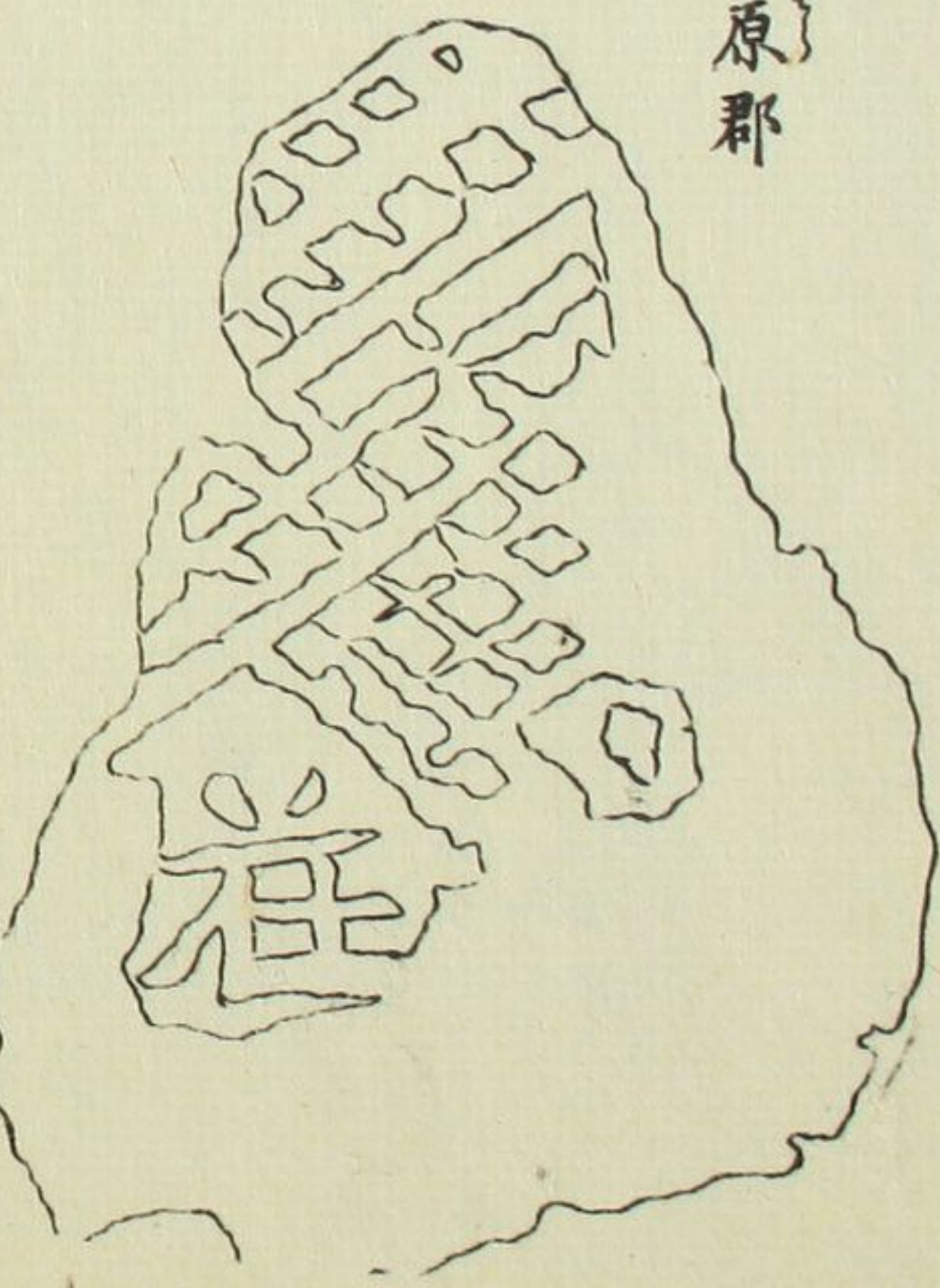
古瓦

二王門跡の辺り數百歩の往の古瓦の破砕せしものあり皆堅密  
の形全くと云々文殊奇中と云々國分寺の古大伽藍を  
印せしものこみ其形を擧て證とす

豊島郡



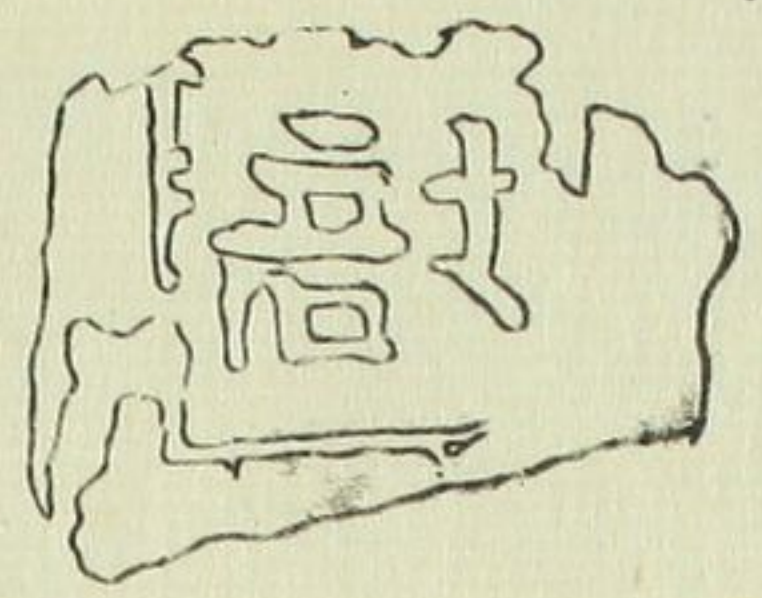
荏原郡



男余郡



播磨郡



埼玉郡

國分寺碑

薬師堂の前右の方より碑文ハ服元雄中英先生撰む

當寺住古源頼義朝臣同義家朝臣奥州征伐發向の頃と

當時へ入りひそ頃ハ盛大の寺院なり云あまの星霜と

経々元弘の兵火と亡びて新田家少く再興あり兵革の

世終古よ復きりな然る宝暦年間権大僧都法印

賢盛衆縁を募り新に醫王閣を宮建し傳ふる所の霊像と

安し靈跡を表す今古伽藍の礎石の厳然とて田間

阡陌の間埋もて懐旧の情を催せり此寺前畑の中不かつて塚

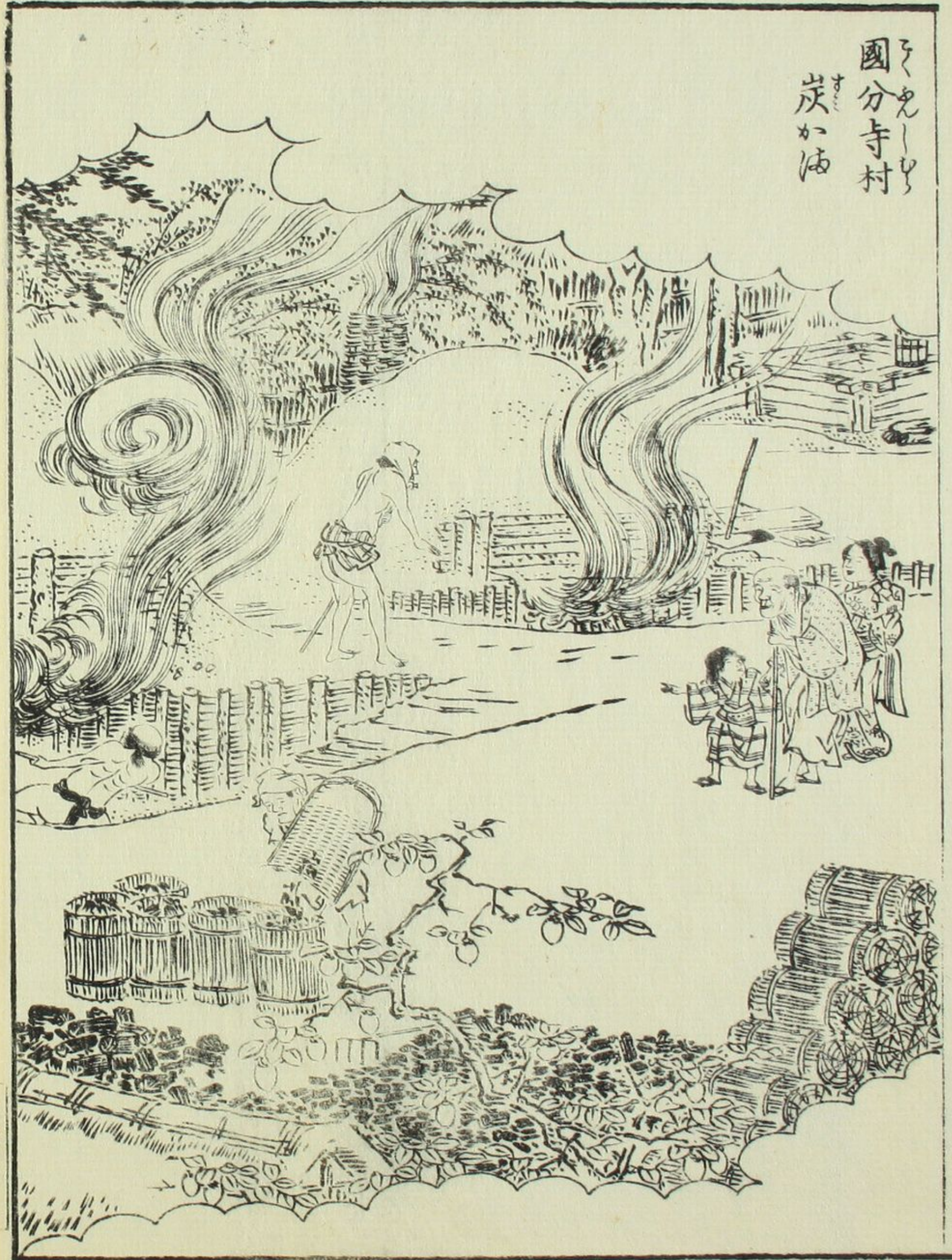
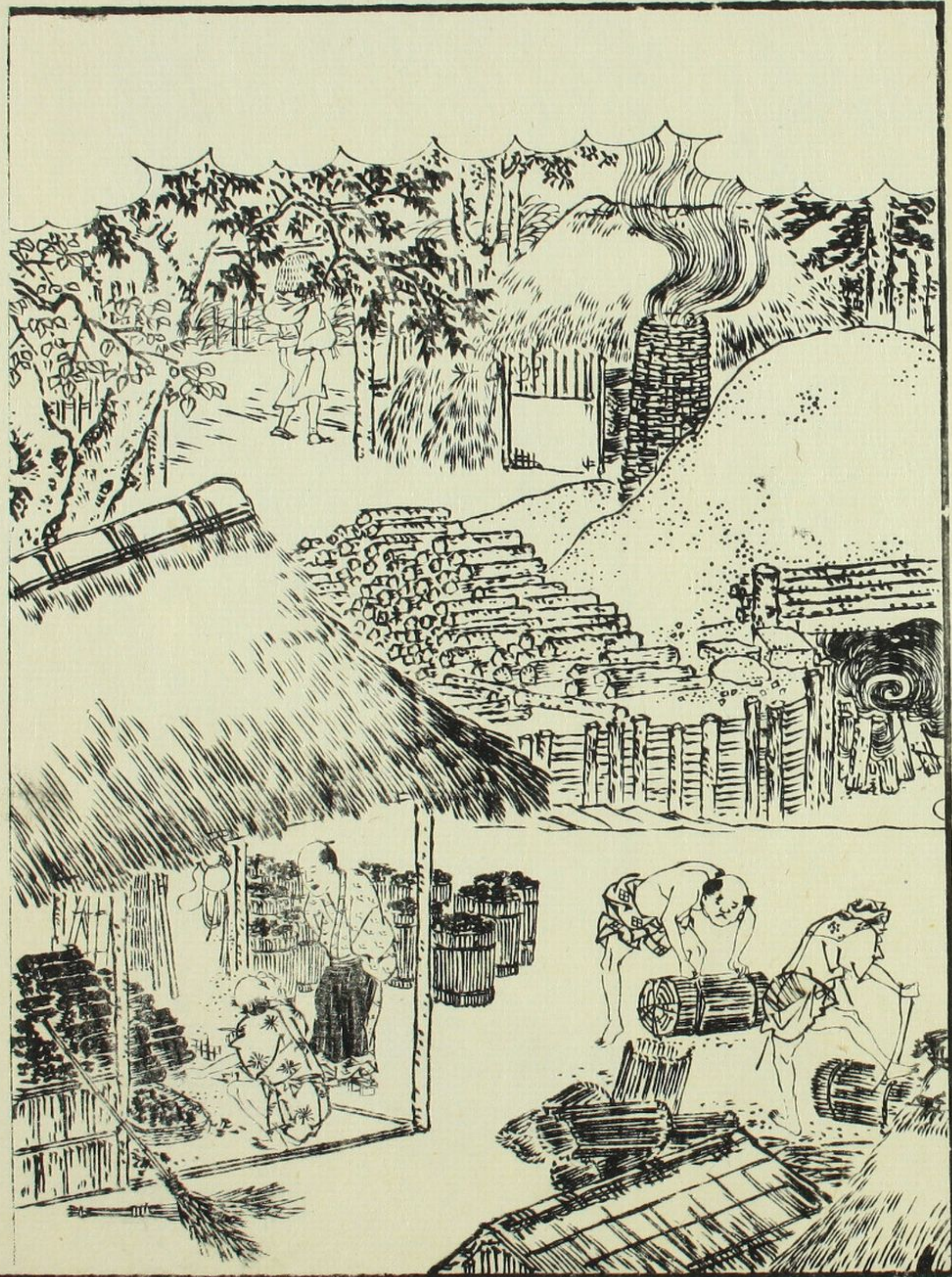
あり或人云かつて食わうけ場ハ頭掛場ありと依り按て古合戦の

富士見塚 國分寺より西の方五町半を隔つ此所小登れハ一瞬千

里珠よ奇觀より東ハ浩茫とて限るあく天涯のこ小地より

接もつと見この中秋の夕月のあつきやを草より吐く草小入の

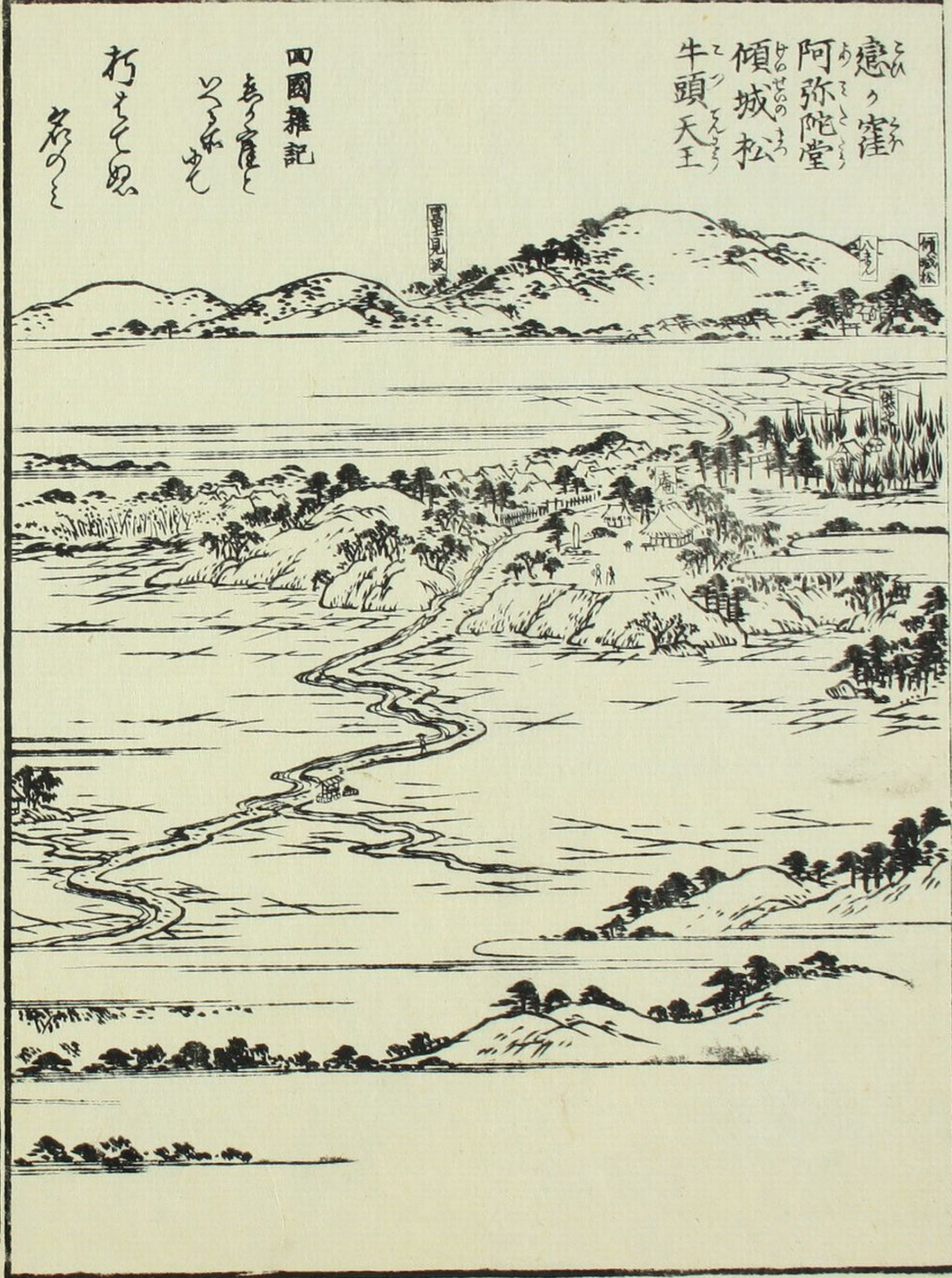
古詠よ古を想像る感情少く守此故よ幽人騷客こよ来る





道真准后

残れる  
 今も  
 同  
 契



意ヶ窪  
 阿弥陀堂  
 傾城松  
 牛頭天王

四國雜記  
 朽もて思  
 名

遊賞せり 五十歩ありたりりりり

阿弥陀坂 富士見塚より十三町ありを隔て建つ窪村の地北へ

向ひく下坂と云此坂の左は傍ら岡草庵あり土人阿弥

陀堂と称す木像の阿弥陀如来を祀るなり

土人云古の本もハ銅像なり今府中六所宮の社地なるもの

見たりとお信ふ往古畠山庄司次郎重忠此地意々窪の驛舎ハ

中より一頃寵愛せし遊君ありし重忠平家追討つて西國へ

出陣せし然る後をこののありて重忠討死し由り

たりとわたりしと實と一かの遊君歎このあり終ふ自殺し

うりしと後重忠はみくおそれと彼遊君う節操を感し菩提の

為に此阿弥陀堂建立し鏡を以て弥陀如来の像を鑄て安置

せしと云酒此地小道場畑と字なる地あり土人云むり此地は無量

阿弥陀堂も境内あり寺院ありかふ畠山庄司次郎重忠此地

ありて鏡像の阿弥陀ハ重忠愛せし遊君の菩提の念造立せり此佛

戀う窪 同所坂より下の低き地をいふ古へ東奥北越ハの國より

京師及び鎌倉ホへ至るの驛路ありて頃ハ遊女の家居なり

ありてとありしとあり

旧址ありとあり

回國雜記 恋う窪と云るあり

傾城う松 同所良の方ハ幡宮の社地あり同一程の古松二株

雙立せり土人重忠う愛せし遊君の塚印の松ありといひ

然れども社地なるもの此ハ幡宮の神樹あり

武蔵野 南ハ多磨川北ハ荒川東ハ隅田川西ハ大嶽秩父根を

限とく多磨橋樹都筑在原豊島足立新座高麗比企入間

等まじり十郡は跨る草より出て草入又草の枕は旅寝此

日敷を忘れ向へる里の遙なり杯代ハの歌人袂を志ゆり

御入園の頃より昔引之十萬戸の炊煙紫霞とせしむ棚引  
僅よす跡の残るも兼應より享保に至り四度迄新田  
開發ありて耕田林園とあり往古の風光これなりとされと月夜  
狭山ふ登りて四隣を顧望せしむるを曠野蒼茫千里無限  
往古の状を想像せしむるなり  
狭山八第四卷  
の中へ入る

萬葉十四東歌

武藏野爾宇良敵可多也伎麻左氏爾毛乃良奴伎  
美我名宇良爾低爾家里  
武藏野乃乎具奇我吉藝志多知和可禮伊爾之與  
比欲利世呂爾安波奈布與  
古非思家波素氏毛布良武乎牟射志野乃宇家良  
我波奈乃伊呂爾豆奈由米  
伊可爾思氏古非波可伊毛爾武藏野乃宇家良我

波奈乃伊呂爾低受安良牟  
武藏野乃久佐波母呂武吉可毛可久母伎美我麻  
爾末爾吾者余利爾思乎  
和我世故乎安村可母伊波武牟射志野乃宇家良  
我波奈乃登吉奈伎母能乎

新古今

續古今

玉葉

續十載

續後拾遺

新續古今

十五番新合

仍亦を定むひとの武藏野の事なり物なるを  
むさしは月の入るきつを屋敷うまふかゝる多き  
旅人のゆくゆくふききけくをききけくむさしゆの事  
むさしゆの事けり事も秋夜のむさしゆの事ありけれを  
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも  
むさしゆの事けり事も秋夜のむさしゆの事ありけれを  
まもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも

攝政  
大政大臣

通方

右大臣

右大臣

家隆

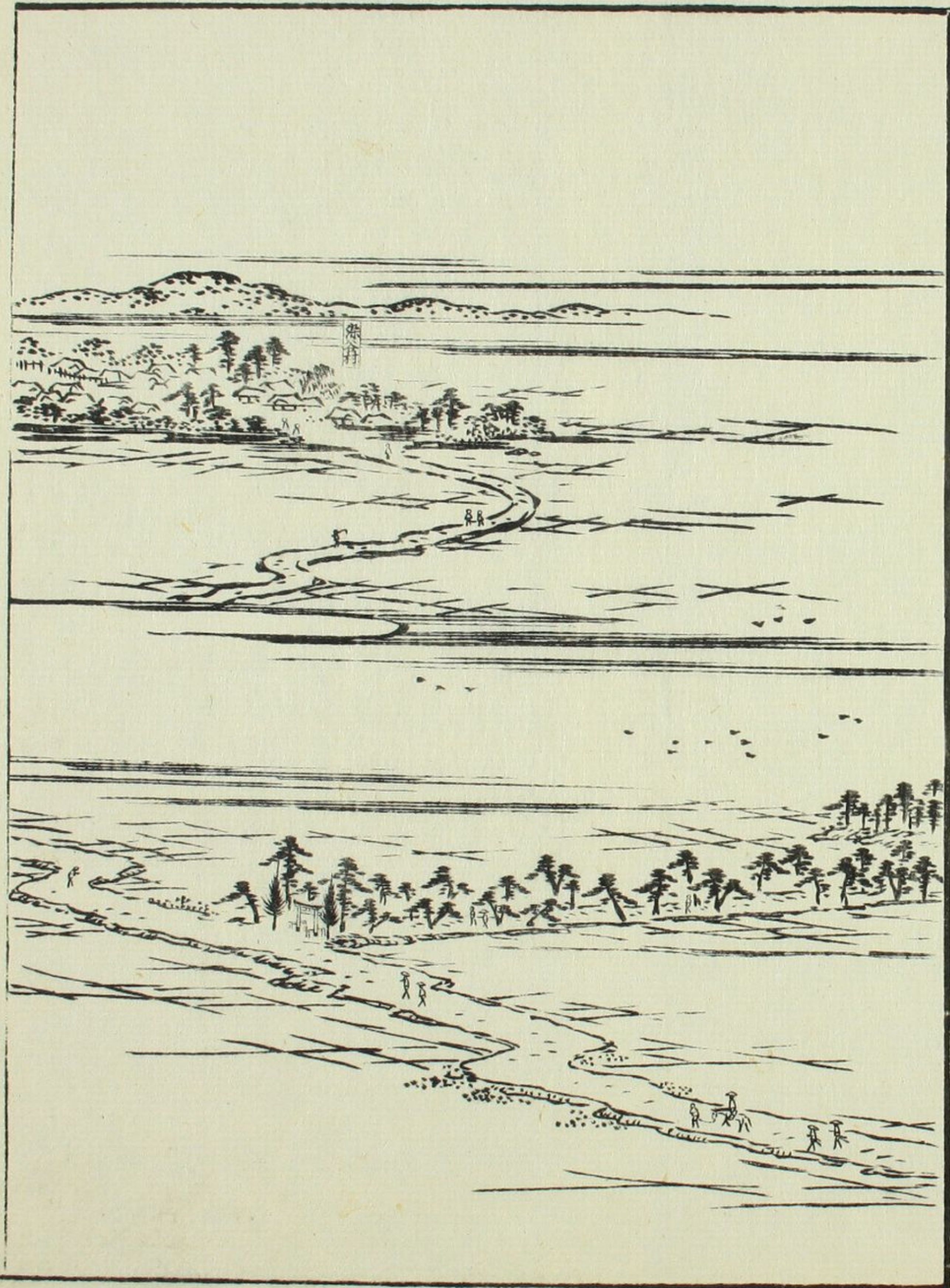
定家

雅経









府中  
八幡宮



終小水の原に至るをば放ふ此名ありといふをよ海一かき

夫木 東海ありといふある迹をばわけるれどもをさるひに 俊頼

同 むと一々の多まがれは水の迹をわたりとせ

性靈集詠陽燄喻 運々春日風光動陽燄紛々曠野

飛舉體空々無所 有狂兒迷渴遂忘歸速而似水近

無物走馬流川 何處依下畧 渴遂忘歸速而似水近

運疾走趣之轉 近 飢渴問極見熱氣如野馬謂之為

唐 陸望志怪錄曰 近 深州東鹿流川皆有水影長七八尺

周 處風士記曰 往 氣 野中陽燄 薄變幻何往不有

武藏野の勝槩々々名不著々々ゆめと珠更よまゆめ高く凡

東西十三里南北十里ありりやあらん日記よ四方八百里に餘も

書る筆のまゝひと云へー天正以來江戸の地を以て御城宮

小定さるれより 廣莫の原野も田は鋤畑は耕し尾花う浪も

民家林藪小沿草一と方一とを残せるのみ

新田開墾より下宿とら地の傍は原野の形勢を残り大野と野

八幡宮 府中六所宮の末社や々々甲州街道八幡宿の道あり左ふ

あり祭る應神天皇なり六所宮の神主猿渡氏兼帯奉祀

す相傳 聖武天皇の御宇日域の國々々勸請一宮宮まゝの

この皆是八幡村の八幡宮とのみ多くハ總社神祠の近きあり

當社も古ハ本社禮殿並ひ建々莊嚴蕩々たり平後を斷

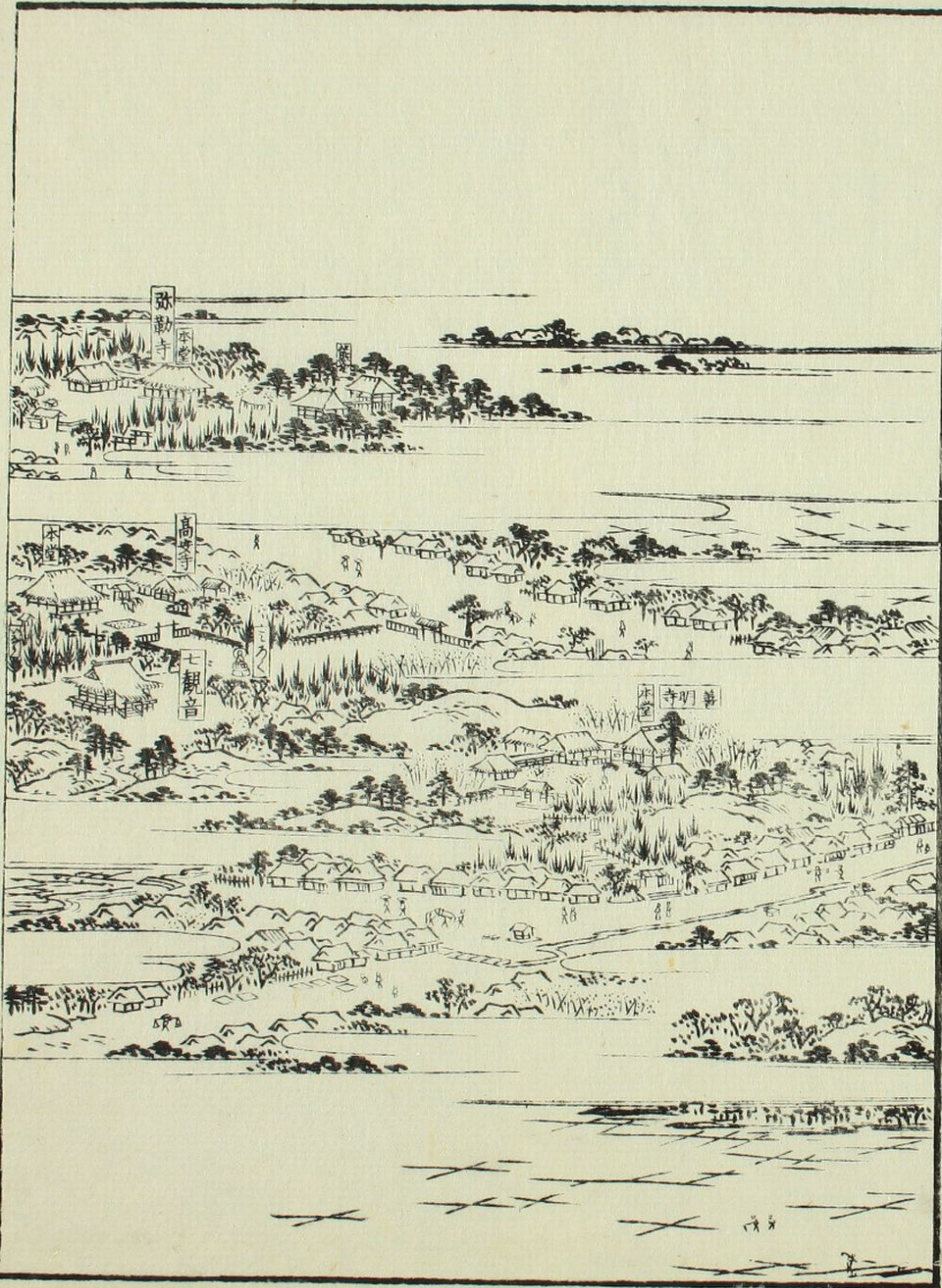
衰敝よ速ひ今ハ即茅宮小社なり 四年あり前まてハ老杉一株

暴風吹おて今ハ野あとのとをなせり 又社境圍園の中は權正とのみ

地名あり古の宮守居住の跡ありといふ

瀧の社 當社も六所宮の末社や々々八幡宮より三町あり

東南の方あり祭神倉稻魂大神なり社の傍は少く半の



府中  
 称名寺  
 弥勒寺  
 善明寺  
 高安寺



飛泉あり六所宮の御手洗池と称せ毎年五月五日大祭の時  
神幸供奉の輩ハ五月朔日より此龍よ浸りて身を清め神夏小

たつとつととととと云

石塚社 當社も又六所宮の末社中て同所南の方代小川の辺に

あり祭神磐筒男命磐筒女命二座なり

府中驛舎 甲州街道の官驛中て江戸日本橋より七里 布田あり 一里廿七丁

日野へ二里 旅舎多し 新宿本宿番場 舊名を小野縣と称せ武蔵國

八丁あり 府中て上古國造居館の地あり和名類聚抄中武蔵國府中

多麻郡小ありと載り徴とせへ延喜延長の頃一變して此辺

まへへ小川郷と稱す 風土記曰小川郷公穀二百六十七束 又其後小野小

川の称止て府中領と德称を尚此郡玉川を境と川南を多

西郡川北を多東郡とも稱し古文書ふととと

越前越後皆 府中と稱せり

常陸對馬長門

